

令和2年度

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語

No.22



出前講座で土器に触れる児童

雄川小学校と朝日小学校の3年生を対象に、令和元年度に発掘調査を行った遺跡についての出前講座を行いました(詳細 22~23 頁参照)。

雄川小学校では黒崎種田遺跡、朝日小学校では友坂遺跡の発掘調査の成果を紹介しました。児童たちは、初めて見たり触れたりする土器に興味津々で、身近に多くの遺跡があることに驚いていました。卒業して大人になっても、先人が残した大切な遺跡がすぐ近くにあることを覚えていてほしいと思います。

目次

I 史跡この1年	2	4 展示・普及	17
1 北代縄文広場	2	5 刊行物	19
2 婦中安田城跡歴史の広場	3	6 活用	19
II 埋蔵文化財調査概要報告	4	7 調査研究	20
1 畠神山横穴墓群・吳羽山古墳(群)		8 研修等参加	21
2 任海宮田遺跡		9 組織・事業費	21
3 富山城下町遺跡主要部		IV 出前講座感想文	22
4 横越遺跡		V 研究報告	
5 下色遺跡・小長沢II遺跡		1 桜木町出土の中世遺物 [堀内大介]	24
III 令和2年度事業概要	8	2 中世越中のウマについて [納屋内高史]	29
1 埋蔵文化財調査実績	8	3 中世・越中国の木製祭祀遺物について [塙沢祐一]	36
2 遺跡地図管理	13	4 遺跡からみた塙川館の成立—宮道・塙川氏の拠点を辿ってー [庵島昌也]	44
3 史跡の保護・管理	14		

I 史跡この1年

はじめに

北代縄文館展示室と安田城跡資料館は、新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年4月15日（水）から5月24日（日）まで臨時休館しました。

再開後は、広場への来場者にはマスクの着用等の表示を行い、ホームページでも案内しました。また、資料館等の展示施設の入館者制限を行うとともに、各種イベントの開催見直しを行い、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めました。

1 北代縄文広場

(1) ミニ企画展「長岡杉林遺跡」Part1 (7/14~1/24) を開催しました。

長岡杉林遺跡は、縄文（早期・中期・後期・晚期）、弥生、古墳、奈良、平安時代の長きにわたり営まれました。

本遺跡は、昭和61（1986）年度に3,200 m²の発掘調査を行いました。また、長岡杉林遺跡の東方、約200mには北代遺跡が所在します。

Part1では、長岡杉林遺跡の縄文時代をとりあげ石組炉（復元）や深鉢等を展示しました。

発掘調査では、縄文時代の住居跡の出土は、後期の堅穴住居跡1棟以外にありません。

調査区周辺にも存在する可能性が低いため、

出土した住居跡は、単独もしくは広い範囲の中に点在する生活様式を示すものと考えられます。



縄文時代の深鉢

(2) ミニ企画展「長岡杉林遺跡」Part2

(1/26~7/11) を開催しています。

Part2では、長岡杉林遺跡の奈良・平安時代をとりあげました。

奈良時代の遺構は、堅穴住居跡2棟、掘立柱建物跡3棟、穴9か所等が出土しており、調査区の南端及び北端の遺構を除くと、住居跡等は約700 m²の範囲にまとまっています。住居跡等の出土状況から、血縁的な結びつきの強い小家族（豪族）の居住区の可能性があります。

平安時代の遺構は、9世紀後葉から10世紀中ごろの掘立柱建物跡3棟、井戸跡1基、溝跡2条、穴1か所等が出土しています。遺物は、瓦塔片（木造建築の塔の形を模して作られた焼物の塔）、縄釉陶器片（碗や火舎：香炉の一種）等の仏教的色彩の強い特殊なものが出土しています。このことから、平安時代の長岡杉林遺跡は、遺跡の周辺に展開した複数の小集落を含めた、拠点的な集落であったことが推測されます。また、遺構や遺物の出土状況から、長岡杉林遺跡は、奈良・平安時代を中心に栄えた遺跡といえます。

（小松博幸）



瓦塔片（左）・綠釉陶器（中央 火舎の脚・右 碗復元）

2 婦中安田城跡歴史の広場

(1) 安田城跡再整備事業

婦中安田城跡歴史の広場は、開場後 27 年を経て、史跡を活用する上での問題が多く生じてきています。そのため、本広場では、地域の貴重な歴史遺産である安田城跡を適切に保護・公開し、歴史学習や憩いの場として一層の利用促進を図ること、さらには越中の中世城館の学習拠点として興味・関心に応えることを目的として、再整備事業を進めています。

令和 2 年度は、平成 30 年度策定の再整備基本計画に基づき、基本設計及び令和 3 年度工事の実施設計（本丸土塁階段改修）を行いました。

また、再整備検討会議を 2 回開催し（書面会議：R 2.8/3～14、R 3.1/25～2/5）、各分野の専門家から聴取した意見を設計に反映しました。

再整備事業は、現在のところ令和 11 年度までを予定しています。

（大野英子）

安田城跡再整備検討会議専門家（敬称略）

氏名	所属	専門分野
西井 龍儀	富山考古学会長、一级建築士	考古学・建築
高岡 徹	とやま歴史的環境づくり研究会代表、越中史壇会会員	戦国史
廣瀬 慎一	農学博士、庄西用水土地改良区理事長（～R 2.11）、元富山県立大学短期大学部教授	多自然水路工法・農業農村整備
古谷 元	公立大学法人富山県立大学 工学部環境・社会基盤工学科 准教授	地盤工学
黒田 啓介	公立大学法人富山県立大学 工学部環境・社会基盤工学科 准教授	環境科学・環境工学
中田 政司	富山県中央植物園長	植物環境
中村 只吾	富山大学 学術研究部教育学系 准教授	活用・地域づくり
谷井 隆彦	富山市公園緑地課長	公園整備

※オブザーバー：文化庁文化資源活用課（整備部門）、富山県教育委員会生涯学習・文化財室

(2) ミニ企画展「新庄城と戦国時代の越中」

（12/15～7/18）を開催しています。

新庄城は、戦国時代後期に越後長尾氏（上杉氏）や織田氏などが越中支配の重要拠点とした平城です。16 世紀前半の文献史料で、初めて新庄城の存在が確認できます。文献史料などによると新庄城は、応仁の乱や一向一揆などの影響を受けて、何度も改修されたようです。

平成 25（2013）年度に行った発掘調査では、15 世紀前半～19 世紀の堀や土塁などが確認され、中世土師器や陶磁器などが出土した

ほか、古代の円面硯（墨を磨る道具）などが出土しました。この発掘調査から新庄の地では、古代には文書を作成する施設が存在し、15 世紀前半には有力者の館が築かれ、館は改修を重ねて城郭へと変わっていたことなど、文献史料以前の新庄城の姿が判明しました。

城郭が築かれるなど、新庄の地が重要視された要因として、平野部にありながら沼地などの湿地帯に守られた天然の要害の地であったことや、北陸街道沿いに位置し、東西南北各方面へ向かう交通の要衝であったことなどが挙げられます。これらのことから、新庄城は戦国時代には様々な武将が拠り、越中国内支配の重要拠点として位置付けられていたといえるでしょう。



展示状況

II 埋蔵文化財調査概要報告

調査概要報告 1 共存する横穴墓と古墳

番神山横穴墓群・呉羽山古墳(群)

(安養坊地内)

1 遺跡のあらまし

番神山横穴墓群と呉羽山古墳群は、呉羽丘陵北部にある古墳時代後期～終末期の墓群です。昭和3年の土砂採取工事で南西側A地区から横穴墓8基と古墳2～3基、昭和40・43年の工事で北東側B地区から横穴墓7基が発見されました(右図)。また、尾根の頂部には前期と推定される径約32mの番神山古墳があります。

今年度の調査地はB地区にあたります。法面保護工事に伴い崖面を削ったところ、新たに横穴墓2基と、古墳の横穴式石室に使われた石材が見つかりました。

2 横穴墓について

横穴墓2基は、平野が見渡せる東斜面に掘られています。崖面際にある横穴墓1は、長さ2.1m、幅1.3m以上の玄室(埋葬の部屋)を設け、中から銅芯に銀を貼った耳環(耳飾り)2点が出土しました。

横穴墓2は、地面を大きく掘り込んで前庭部を造り、その奥に玄室の入口があります。前庭部からは須恵器が出土しました。玄室内部は現在調査中で、副葬品や人骨の出土が予想されます。

3 古墳の横穴式石室の石材について

工事前に崖面の樹木を伐採したところ、底状に張り出した表土の下に石が貼り付いているのが確認できました。この表土を削り落としたところ、横穴式石室の壁材である円礫34個と、天井の板石3個が見つかりました。板石は、高岡市海岸部付近の砂岩(太田石)とみられます。石は散乱した状態で埋まっていたため、昭和の土砂採取工事で破壊された横穴式石室の石材が、一部取り残されていたものと推測されます。

4まとめ

この遺跡では、ほぼ同時期の同じ場所に古墳と横穴墓という異なる種類の墓が共存しています。A地区でも両方が同じ墓域で見つかっており、古墳の方が豊富な副葬品を持っていました。このことから墓の違いは階層差を表す可能性が高く、古墳の被葬者を首長とし、その下に横穴墓の被葬者が従属する集団であったと思われます。

(野垣好史)



調査位置



横穴墓1出土の耳環



横穴墓2の入口部



横穴式石室の石材(手前3個が天井石)

(任海地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市南部に所在し、神通川とその支流である熊野川の合流点から約4km南方の複合扇状地に立地します。

調査区の周辺にはとやま健康パークや富山南総合公園があります。

過去の調査から、飛鳥・奈良・平安・中世に渡る大規模な開墾集落遺跡であると分かっています。

2 調査の概要

市道の道路改良工事に先立ち、80.8m²を対象に、発掘調査を行いました。

その結果、古代・中世・近現代の遺構を確認しました。遺物は、土師器、須恵器、中世土師器、越中瀬戸、鉄滓などが出土しました。須恵器が出土量の大半を占めます。

ここでは、調査成果として検出遺構を紹介します。

<水路> この遺構は、調査区東寄りで検出しました。水路は南北方向に走り、底には大礫が堆積します。遺物は須恵器、中世土師器、珠洲が出土しました。

断面を観察すると、最低6回は掘り直しをすることから、古代から中世にかけて埋没と掘り直しを繰り返しながら使用されたと考えられます。

また、水路の西側では大礫が詰まった土坑を検出しました。土坑の底で須恵器が出土したため、古代のある時期に、この水路を掘削した際に不要となった礫をこの土坑に廃棄した作業があったと考えられます。

<掘立柱建物跡> この遺構は、調査区中央東寄りで検出しました。東西方向に約3.5m(11尺)間隔で、土坑を3基確認しました。遺物は出土していません。遺構の大きさや、過去の調査で検出された古代の流路が埋まつた後に形成されていること、近世流路に削平された様子から、この遺構は中世に形成されたと考えられます。

3 まとめ

検出した水路は、繰り返し使用されるほど重要な水路であり、その用途は田に水を引く主要水路だったと推測できます。また、近接して建物跡も検出されるなど、開墾集落の一端を示す調査成果を得ることができました。（泉田侑希）



調査区全景（東から）



複数回使用された水路



中世と思われる掘立柱建物跡

1 遺跡のあらまし

調査地は、富山城址公園の東 450m の旧八人町小学校グラウンド東端に位置します。東側約 180m には、馳川が南北方向に流れています。

2 調査の概要

市道路整備課による火防水路新設工事に伴い、幅 2m × 延長 34m × 深さ 1.5m の掘削工事の立会調査を実施しました。

地表下 1m までは近現代の盛土がみられ、その下に厚さ 10~20 cm の 18~19 世紀の遺物を含む江戸期の整理層を確認しました。その下には厚さ 40 cm の湧水を伴う灰色砂層が堆積し、その下は砂礫層となり、江戸期以前の河道跡を確認しました。

3 江戸期以前の旧馳川の川跡を検出

『越中国富山古城之図』(正保絵図)には、馳川本流から北西方向に分流する支流が描かれています。調査地南にはかつて東西の堤町(現堤町通り 1・2 丁目)があり、その間を流れる慶長期以前の旧馳川流路の存在が推測されていました(文献 1)。これらの流路が交わる地点のやや北側で今回みつかった河道跡は、江戸期以前の旧馳川の川跡と推測されます。

馳川の右岸は室町期の永享 2(1430) 年、6 代将軍足利義教が後の正室三条尹子に与えた「富山柳町」『足利義教御内書』(二尊院文書) に比定されています。左岸は「富山郷」(近世期の「富山町」の範囲か)と呼ばれ、それらの境界が馳川にあったと推測されていました。16 世紀の富山を伝える往来物『富山之記』には「馳河原ニ馬場拵へ・・」と記され、馳川に広い河原があり、今の川幅よりもかなり広かったようです。

今回、旧馳川の川跡がみつかったことによって、中世期の「柳町」が現在の馳川より西側に広がっていたことが判明しました。この付近では江戸期初期に川跡を整地し、城下町が形成されていたようです。

(鹿島昌也)

文献

- 1 古川知明 2014 『富山城の縄張と城下町の構造』
桂書房



調査概要報告 4 農耕に伴う溝群を検出か

よこごし 横越遺跡

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市北部の常願寺川左岸、標高 3~4m の氾濫平野に立地します。ほ場整備に伴う工場南側周辺の発掘調査では、農耕に伴う水路などが確認されています。

2 調査の概要

工場整備に伴う工場付帯建設物の建築工事に先立ち、工事計画地のうち 411.7 m²を対象に発掘調査を行いました。その結果、縄文～中世の大溝 3 条、小溝 29 条などの溝群を確認しました。大溝からは、縄文土器、打製石斧、須恵器、古代土師器、中世土師器、珠洲、鉄滓などの遺物が出土しました。周辺調査同様に農耕に伴う溝群と推測されます。 (堀内大介)



調査区全景（上が北）

調査概要報告 5

下呂遺跡・小長沢 II 遺跡

(婦中町小長沢地内)

調査地は、西を羽根丘陵、東を辺呂川に挟まれた氾濫平野に立地する、婦中町小長沢地区にあります。標高は 17.5~20m を測ります。羽根丘陵では、縄文時代前期には平岡遺跡に大規模な集落が営まれます。弥生時代後期～古墳時代前期には、山陰に起源をもつ西隅突出型墳丘墓や県内でも有数の大きさの前方後方墳、集落からなる史跡王塚・千坊山遺跡群が所在し、古墳時代後期には二本榎遺跡の横穴式石室をもつ円墳など、この地域を治めた有力者や家族の古墳が造られます。



2 調査の概要

県営ほ場整備事業に伴い水田 3.43ha を対象に遺跡の有無を確認する試掘調査を行いました。

今回の調査で、下邑遺跡では調査対象地の西で奈良・平安時代の溝・ピットが見つかりました。

小長沢 II 遺跡では調査対象地全域で、鎌倉～室町時代の溝・土坑・ピットが見つかりました。

出土遺物には、縄文土器、土師器、須恵器、珠洲、中世土師器、近世陶磁器があります。

3まとめ

試掘調査の結果、古代～中世にかけて、この地域に集落があったことがわかりました。下邑遺跡は從来の遺跡範囲の北西外に遺跡が拡がる可能性があり、小長沢 II 遺跡では、今回調査対象地の南東にも遺跡がある可能性があります。

(細辻嘉門)

III 令和2年度事業概要

1 埋蔵文化財調査実績

(1) 発掘調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	面積 (m ²)	調査結果	遺跡の種類
横越 (2010046)	野田字戸尻割 横越	工場増築に伴う工 場付帯建設物の建 築・整備	411.7	縄文～江戸大溝、不明溝、不明土塙、不明ビ ット／縄文土器、縄文打製石斧、古代須恵 器、古代土師器、中世土師器、中世珠洲、江 戸磁器、不明鉄滓	集落
任海宮田 (2010654)	任海	市道任海13号線 改良工事	80.8	古代溝、古代土塙、古代集石遺構、古代不明 遺構、平安土塙、江戸土塙、江戸以降溝、不 明土塙、不明掘立柱建物、不明遺構／古代土 師器、古代須恵器、中世土師器、江戸越中漚 戸、不明土師器、不明磁器、不明鉄滓、不明 土製品	集落
計2件			492.5		

(2) 試掘調査・工事立会 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は工事立会

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
打出(2010002) *	布目	中学校校舎改築主体工 事仮設事務所設置工事	24	遺跡なし
四方西野割 (2010003) *	四方	上水道引込工事	3	遺跡なし
四方西野割 (2010003)	四方	店舗兼住宅建築	446.26	不明土師器
大村(2010008) *	海岸通	海岸通地区下水管改築 工事	86	縄文(後)土塙、弥生土塙／縄文(後)縄文土 器、弥生土器、不明土師器
浜黒崎町烟 (2010014) *	浜黒崎	小学校外構工事	13.29	遺跡なし
呂羽野田(2010020)	呂羽野田	農作業場建築	737.59	弥生土器
今市(2010023)	八町	個人住宅建築	115	遺跡なし
今市(2010023)	八町	個人住宅建築	188.42	江戸越中漚戸
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	392.43	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	422.93	弥生溝、弥生・平安土塙、弥生(終)～古墳 塚、弥生～古墳ビット、不明溝、不明ビ ット／弥生土器、弥生(終)～古墳土師器、 古墳土師器、古代須恵器、昭和磁器、不明 土師器
今市(2010023)	布目	器具置場改築工事	666.91	江戸不明溝、不明溝／江戸越中漚戸
今市(2010023)	今市	個人住宅建築	325.96	弥生～古墳土師器
今市(2010023) *	八幡	個人住宅建築(改築)	5	遺跡なし
今市(2010023)	今市	個人住宅建築	331.37	遺跡なし
今市(2010023)	布目	埋設物調査	337.19	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	224.87	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	328.44	遺跡なし
今市(2010023)	守島	個人住宅建築	461.56	平安溝、平安土塙、平安小穴／平安須恵器、 平安土師器
草島(2010029)	草島字鶴田	資材置場造成	714	遺跡なし
森(2010031)	森1丁目	個人住宅建築	249.99	遺跡なし
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	個人住宅建築	376	遺跡なし
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	個人住宅建築	194.74	遺跡なし
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	個人住宅建築	278.47	遺跡なし
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	個人住宅建築	245.68	遺跡なし
飯野新屋(2010038)	水落字高田 剤	駐車場造成	11,612	不明溝／中世土師器
針原中町II (2010052)	針原中町字 折	個人住宅建築	289	遺跡なし
宮条南(2010055)	宮条字浦野 剤	個人住宅建築	244.62	弥生溝、不明溝／弥生土器、不明磁器、不 明土師器、不明石製品
宮条南(2010055) *	宮条字浦野 剤	個人住宅建築	7,286	弥生溝／弥生(後～終)弥生土器
宮条南(2010055)	町袋	個人住宅建築	262.17	不明ビット、不明溝／なし

遺跡名 (遺跡番号)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂	個人住宅建築	327	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂 字荒町	公民館建築	126.09	江戸土坑／繩文(後)繩文土器、江戸唐津、江戸伊万里
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂 字荒町	主要地方道富山魚津線 道路橋りょう改築事業	70	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂 字荒町	店舗建築工事	132.18	不明溝／古代土師器
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056) *	水橋辻ヶ堂	水橋第1処理分区水橋 辻ヶ堂地区下水管布設 工事	93	明治磁器
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂	カーポート設置工事	30	遺跡なし
水橋永剣(2010063)	水橋箭町	個人住宅建築	350.2	弥生土器
水橋小出(2010067)	水橋小出	個人住宅建築	409	中世珠洲、中世土師器、中世漁戸、江戸越中漁戸
東老田Ⅲ(2010087)	東老田	個人住宅建築	488.91	古代土師器
東老田Ⅲ(2010087)	東老田	鉄塔敷地舗装	420	遺跡なし
東老田Ⅲ(2010087)	東老田	鉄塔敷地舗装	298	遺跡なし
願海寺跡 (2010091)	願海寺	個人住宅兼店舗建築	386.04	遺跡なし
願海寺跡 (2010091)	願海寺宇安 ノロ	個人住宅建築	380.8	江戸溝、不明溝、不明土坑／江戸唐津、江戸伊万里、江戸陶器、不明磁器、不明土鍾
願海寺跡 (2010091) *	願海寺	第5世代移動通信システムネットワークの整備	0.75	遺跡なし
吉作Ⅲ(2010113)	吉作	個人住宅建築	858.2	繩文土器、古代土師器、古代須恵器、古代鉄津
赤島池(2010134)	吉作	個人住宅建築	310.19	遺跡なし
山寺谷Ⅱ(2010142)	呉羽町	個人住宅建築	287.42	弥生土器
呉羽本町(2010147)	呉羽町	個人住宅建築	257.57	遺跡なし
追分茶屋御花畠Ⅱ (2010157)	追分茶屋 御花畠	個人住宅建築	244	繩文土器
茶屋町涌山古墳群 (2010168)	茶屋町	呉羽丘陵フットバス (呉羽山・城山連絡橋) 設置工事	840	江戸道路／江戸越中漁戸、江戸瓦器、江戸伊万里、江戸焼し瓦、江戸陶器、近代陶磁器、近代瓦、近代瓦窯道具
茶屋町表山古墳群 (2010169)	茶屋町	呉羽丘陵フットバス (呉羽山・城山連絡橋) 設置工事	50	不明整地層／近代磁器
北代布口Ⅱ (2010181)	北代字布口	個人住宅建築	458	遺跡なし
北代布口Ⅱ (2010181)	北代字布口	集合住宅建築	942	遺跡なし
呉羽富田町 (2010182)	北代字伊佐 波	集合住宅建築	1,360	遺跡なし
八ヶ山A(2010229)	八町南	資材置場造成	10,909	古代溝、古代土坑、古代ピット／古代土師器、古代須恵器、中世珠洲、江戸陶磁器
豊田本町一丁目 (2010244) *	豊田本町1 丁目	市道城川原豊田線側溝 改良工事	46	遺跡なし
下富居(2010250)	下富居1丁 目字勝勝削	分譲住宅建築	165.39	遺跡なし
下富居(2010250)	下富居1丁 目字勝勝削	個人住宅建築	234.89	古代土師器
下富居(2010250)	下富居1丁 目字勝勝削	個人住宅建築	144.7	遺跡なし
下富居(2010250)	下富居1丁 目字勝勝削	建売住宅建築	144.7	江戸越中漁戸、江戸伊万里
下富居(2010250) *	下富居1丁 目	豊田町一丁目地区下水管 改築工事	142.7	遺跡なし
中富居(2010251)	上富居2丁 目	貸事務所建築	1,424.64	中世土師器
中富居(2010251)	上富居2丁 目	集合住宅建築	1,896.74	古代土師器、江戸磁器
上富居(2010252)	上富居2丁 目	駐車場造成	805	遺跡なし
小西北(2010257)	小西	乾燥調製施設建設	72.95	古代須恵器
金泉寺(2010260) *	金泉寺	携帯電話基地局設置工 事	4	江戸磁器

遺跡名 (遺跡番号)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
宮成(2010261)	宮成	宅地開発工事	238	江戸伊万里
宮成(2010261)	宮成	個人住宅建築	262	遺跡なし
水橋二杉(2010262) *	水橋二杉	市道水橋二杉6号線改良工事	33	遺跡なし
水橋金広・中馬場(2010286) *	水橋中馬場	市道水橋金広中馬場線外1箇改良工事	40	遺跡なし
北押川C(2010349) *	平岡	第2期呂羽南部企業団地緩衝帯整備工事	6,500	古代炭塚／縄文土器
友坂(2010429) *	婦中町下条	携帯電話基地局設置工事	2	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	414.52	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	264	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町下条	個人住宅建築	347.63	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町下条	宅地造成工事	724.87	不明構、不明土坑／不明土師器
友坂(2010429)	婦中町下条	資材置場造成	622	不明土坑／中世珠洲
寺町大平下(2010437)	寺町字大平下	個人住宅建築	380	弥生土器
大畠城跡(2010439) *	五福	五福地区配水管布設替工事	7	遺跡なし
羽根下立(2010440)	羽根	資材置場造成	619	遺跡なし
千石町(2010444)	千石町1丁目	個人住宅建築	90.63	不明構／江戸磁器、近現代陶磁器
千石町(2010444)	千石町4丁目	個人住宅建築	474.31	江戸土坑、江戸構／中世土師器、江戸伊万里、江戸越中漬戸、江戸小杉焼、江戸陶磁器、江戸人形、江戸瓦、近代陶磁器、近代ガラス瓶、近代銅錢
千石町(2010444)	千石町3丁目	個人住宅建築	137.54	江戸～近代陶磁器、江戸木製品（漆器、下駄など）
千石町(2010444)	千石町3丁目	分譲宅地造成	579.55	江戸井戸／江戸唐津、江戸伊万里、江戸越中漬戸、江戸木製品（漆器、下駄、板、曲物）、江戸井戸枠（桶）、江戸石造物、近代陶磁器
向新庄(2010451) *	向新庄4丁目	水路布設工事	148	遺跡なし
各願寺前(2010500)	婦中町字石川戸、婦中町長沢字新町	個人住宅建築	549	遺跡なし
各願寺前(2010500) *	婦中町新町	下水管布設工事	4	遺跡なし
各願寺前(2010500)	婦中町新町 字石川戸、 婦中町長沢 字新町	資材置場及び展示スペース整備	376	縄文土器、弥生土器、古代須恵器
小長沢II(2010530)	婦中町小長沢	個人住宅建築	1,286.7	近代磁器
小長沢II(2010530)	婦中町小長沢	黒営ほ場整備事業小長沢地区は場整備工事	2,480	中世構、中世ピット／中世土師器、中世珠洲、中世古錢、江戸越中漬戸
下邑(2010542)	婦中町小長沢	黒営ほ場整備事業小長沢地区は場整備工事	31,820	古代構、古代ピット／縄文土器、古代土師器、古代須恵器、中世土師器、江戸越中漬戸、江戸不明陶磁器
鶴坂寺跡(2010548)	婦中町鶴坂	個人住宅建築	1,012.19	遺跡なし
黒瀬大屋(2010549) *	黒瀬	大沢野処理分区長附地区下水管布設工事	36	江戸越中漬戸
黒崎種田(2010550)	黒崎字種田剤削	事務所建築	2,085	遺跡なし
黒崎種田(2010550)	黒崎字塚田駐車場造成		439.55	古代土師器、古代須恵器
黒崎種田(2010550)	黒崎字種田剤削	資材置場造成	829	遺跡なし
黒崎種田(2010550)	黒崎	事務所建築	119.51	遺跡なし
黒崎種田(2010550)	黒崎字寺田駐車場造成		515	不明構／中世珠洲、中世漬戸美濃、不明土師器
八日町(2010551)	八日町	個人住宅建築	487.45	遺跡なし
朝菜町鳥ノ木(2010555)	上袋	個人住宅建築	627	中世ピット、中世構、中世井戸、中世縄／古代須恵器、古代土師器、中世かわらけ
朝菜町鳥ノ木(2010555) *	上袋	個人住宅建築に伴う水道管吸引	2	遺跡なし

遺跡名 (遺跡番号)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
上野井田(2010557)	二俣	店舗建築	1,169	江戸磁器
太田中田Ⅱ (2010568)	太田字中田	個人住宅建築	423.47	江戸伊万里
富崎(2010604)	福中町富崎 字室屋敷	農機具格納庫建築	112.03	遺跡なし
上吉川Ⅰ(2010635)	福中町上吉 川	分譲宅地造成	218.16	遺跡なし
上吉川Ⅱ(2010635)	福中町上吉 川	個人住宅建築	217.96	遺跡なし
翠尾Ⅰ(2010638)	八尾町翠尾	個人住宅建築	305	遺跡なし
中名Ⅰ(2010646) *	福中町中名	事務所兼作業所建築	18.94	遺跡なし
任海宮田(2010654)	任海	個人住宅建築	928.65	古代溝／古代土師器
任海宮田(2010654)	任海	個人住宅建築	23.4	平安土壇／平安土師器、平安須恵器
任海宮田(2010654)	任海	市道任海1号線改良工事	270	遺跡なし
下熊野(2010672) *	安養寺	佐田川改良工事	71	遺跡なし
二俣(2010674)	上野	個人住宅建築	512.29	遺跡なし
二俣(2010674)	上野	個人住宅建築	661	遺跡なし
石田打宮(2010676)	石田字打宮 剤	個人住宅建築	369.28	近代磁器、近代木製品
上野鍋田(2010680)	上野	駐車場造成	685	遺跡なし
吉岡(2010682)	若竹町4丁 目	個人住宅建築	223.29	遺跡なし
悪王寺(2010683) *	悪王寺	携帯電話基地局設置工事	4	遺跡なし
上熊野(2010689)	上熊野	農作業場建築	168.64	遺跡なし
小杉古屋敷 (2010690)	右田万藏剤	個人住宅建築	402.03	遺跡なし
布市北(2010692)	小杉	個人住宅建築	232.9	江戸土壇／古墳土師器(堆型土器)、古代土師器(幾)、江戸越中漬戸
額本郷Ⅱ(2010737) *	八尾町高善 寺地内	一般国道422号道路総合交付金(防災・改築)路肩拡幅工事	170	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	神社社務所建築	100	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	個人住宅建築	319	江戸陶器
黒田(2010744)	八尾町黒田	個人住宅建築	496.17	遺跡なし
塙(2010767)	塙字内割	駐車場造成	925.18	遺跡なし
大井(2010773) *	大井	市道月岡青柳上今町線 外2線改良工事	60	中世土師器、江戸越中漬戸、江戸瀬戸美濃
小羽西(2010876) *	葛原	葛原地区配水管布設替 工事	50	近代陶器
龜谷銀山(2010913) *	小見西又割	林道大山ヒノ谷線路肩 改良工事	300	遺跡なし
直坂Ⅱ(2010952)	直坂	個人住宅建築	256.82	遺跡なし
中島(2010996)	榆原字中島	個人住宅建築	288	遺跡なし
中島(2010996) *	榆原字中島	携帯電話基地局設置工事	3.8	遺跡なし
布尻(2011001)	布尻	中山間総合整備 富山 広域地区 大沢野工区 布尻農用地改良保全工事(仮称)	11,480	説文土器、江戸越中漬戸、江戸伊万里、不明土師器
布尻A(2011003) *	町長	町長地区配水管布設替 工事	4	遺跡なし
庵谷・片掛銀山 (2011020) *	片掛	市道庵谷片掛線法面改 良工事	135.7	遺跡なし
庵谷・片掛銀山 (2011020) *	庵谷	市道庵谷片掛線法面改 良工事	139.7	遺跡なし
片掛(2011022) *	片掛	道の駅情報提供設備及 びCCTVカメラ設置工事	2.25	遺跡なし
片掛(2011022)	片掛	B31・32 富山管内道路 維持工事	42.31	遺跡なし
富山城下町遺跡主要 部(2011048) *	一番町	国道41号一番町南交 差点改良	52	遺跡なし
百塚古墳群 (2011058)	百塚	個人住宅建築	298.07	不明土壇(伐根痕か?)／なし

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
計 139 件(うち工事立会※35 件)			128,664.44	

(3) 令和元年度(平成 31 年度)補遺 (3 月分)

遺跡名 (遺跡No.)	所在地	調査原因	対象面積 (m ²)	調査結果
四方西野割 (2010003) *	四方字大江添	携帯基地局設置工事	4	遺跡なし
日方江(2010011)	日方江	個人住宅建築	330.51	弥生～古墳・江戸土坑、弥生～古墳土坑、古墳・中世溝、弥生・江戸溝／弥生土器、弥生(末)～古墳土器、古墳(初頃)土器、古代須恵器、不明土器、中世珠洲、江戸(前)越中漸戸、江戸(前)伊万里
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	240	不明土坑／江戸越中漸戸、明治伊万里、明治陶器
四方荒屋 (2010026)	四方北庄字冷田	太陽光発電所設置工事	7,200	中世溝、中世ピット／弥生土器、平安土鍬、中世かわらけ、江戸伊万里
浜黒崎瓶田 (2010041)	浜黒崎	駐車場造成	455	不明土坑／古代須恵器
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056) *	水橋辻ヶ堂	市道水橋辻ヶ堂 6 分派改良工事	70	遺跡なし
水橋荒町・辻ヶ堂 (2010056)	水橋辻ヶ堂	店舗建築	490.31	遺跡なし
長羽富田町 (2010182)	北代字伊佐波	個人住宅建築	459.18	遺跡なし
八町Ⅱ(2010228) ＊	八町南	橋梁架け替え工事	22	遺跡なし
中富居(2010251) ＊	中富居	携帯基地局設置工事	4	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	560	遺跡なし
小長沢Ⅱ (2010530)	婦中町小長沢	県営ほ場整備事業 小長沢地区ほ場整備	14,021	弥生溝、弥生ピット／弥生土器、古墳土器、中世土器、中世珠洲、不明基石
下邑(2010542)	婦中町小長沢	県営ほ場整備事業 小長沢地区ほ場整備	23,941	古代溝／繩文土器、弥生土器、古墳土器、古代土器、古代須恵器、中世土器、中世珠洲、江戸越中漸戸、江戸伊万里
黒崎種田 (2010550)	黒崎字寺田割	駐車場造成	299.28	遺跡なし
赤田寺割 (2010554)	赤田	資材倉庫建築	146.12	遺跡なし
上野井田 (2010557) *	二俣	排水処理分区二俣地区下水管路設工事	348.7	平安ピット、平安土坑、平安溝、平安堅穴建物／平安土器、平安須恵器
千里F(2010625)	婦中町千里	個人住宅建築	1,137.59	遺跡なし
中名Ⅱ(2010647) ＊	婦中町中名	車庫建築	11.23	遺跡なし
上熊野(2010689) ＊	上熊野	送電線鉄塔敷地の舗装	55	江戸～明治磁器
堆ノ山(2010704) ＊	月岡町4丁目	カーポート建築	30.07	遺跡なし
東黒牧上野D (2010804) *	東黒牧字上野山割	駐輪場設置工事	30.4	遺跡なし

令和元年度(平成 31 年度)の総計(4～3 月)は 168 件(うち工事立会※49 件)

2 遺跡地図管理

富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の総数は 1,045 ヶ所、総面積は約 73.6 k m²です(令和3年2月末現在)。これは市域 1,241.77 k m²の約 5.9%にあたります。史跡・埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に搭載され、埋蔵文化財センター窓口のほか、インターネットでも閲覧することができます。

(1) 令和2年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等 (令和2年3月～令和3年2月)

No.	遺跡名(遺跡番号)	面積(m ²)	変更内容
1	宮町遺跡(2010053)	115,966	試掘調査により南・東側範囲縮小
2	水橋池田館遺跡(2010059)	66,322	試掘調査により北・西・南側範囲縮小
3	水橋石政遺跡(2010064)	4,916	試掘調査により範囲縮小
4	小出城跡(2010066)	133,163	試掘調査により北・東・南側範囲縮小 西側範囲拡大
5	水橋狐塚(2010069)	123	試掘調査により範囲縮小、北側範囲拡大 伝承により名称変更
6	水橋小池遺跡(2010072)	28,763	試掘調査により北・西・南側範囲縮小 工事立会により南東側範囲拡大
7	水橋上砂子坂・下砂子坂遺跡(2010074)	362,233	試掘調査により南東側範囲拡大
8	明神山遺跡(2010168)	37,003	試掘・分布調査により統合・範囲拡大
9	呉羽山古墳(2010224)	1,181	位置の修正
10	番神山横穴墓群(2010225)	12,719	検討により北・東側範囲拡大
11	水橋田伏遺跡(2010283)	71,058	試掘調査により南側範囲縮小 「田伏・佐野竹遺跡」の一部を統合
12	水橋佐野竹遺跡(2010298)	10,663	試掘調査により範囲縮小
13	北押川C遺跡(2010349)	14,242	工事立会により北東側範囲拡大
14	朝菜町鳥ノ木遺跡(2010555)	85,073	試掘調査により南東側範囲拡大
15	上野鍋田遺跡(2010680)	34,336	試掘調査により南側範囲縮小 分布調査により北側範囲拡大
16	五輪塔古石塔群(2010994)	30	現地確認により位置修正
17	中島遺跡(2010996)	55,895	分布調査により北側範囲拡大
18	番神山古墳(2011057)	1,810	工事立会により新規追加
19	水橋中村遺跡(2010058)	—	試掘調査により登録抹消
20	水橋池田館II遺跡(2010060)	—	試掘調査により登録抹消
21	水橋狐塚遺跡(2010069)	—	試掘調査により登録抹消
22	茶屋町表山古墳群(2010169)	—	明神山遺跡と統合により登録抹消
23	水橋高寺遺跡(2010282)	—	試掘調査により登録抹消
24	水橋北馬場遺跡(2010285)	—	試掘調査により登録抹消

(2) 遺跡地図のインターネット公開

遺跡地図は富山市ホームページで公開し、史跡・埋蔵文化財包蔵地の範囲、名称・所在地等の概要が閲覧できます。建築・土木工事、各種開発、不動産売買の手続き等の参考にしてください。また、遺跡地図はデータを随時更新していますので、その都度ご確認ください。

閲覧は、富山市ホームページのトップページから、「インフォマップとやま」→「まちづくり情報マップ」→「遺跡地図」の順に進んでください。閲覧にあたっては利用条件をご確認ください。

※URL <http://www2.wagmap.jp/toyama/top/>

3 史跡の保護・管理

(1) 北代縄文広場

①管 理

A 管理運営委託等

a 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。自治振興会が配置した管理人が広場の管理等を行い、富山市北代縄文広場ボランティアの会員が管理等の手伝いを行いました。

b 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、各種イベントの開催見直しを行うとともに、北代縄文館展示室への一度の入館者を7人程度、復原堅穴住居への一度の入館者を4人程度、復原高床建物は閉鎖としています。なお、縄文土器づくり等の体験学習は中止しています。

C 環境整備

堅穴住居の廻し（防虫・湿気対策）、広場の草刈、樹木剪定などは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。この他、機械除草、高木の剪定、広場外灯修繕、鳥害による北代縄文館の軒天修繕等を行いました。

B 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

C その他

「第15回越中富山ふるさとチャレンジスタンプラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。

令和2年5月26日～令和2年10月18日

②ミニ企画展

テーマ	期 間	主な展示品	来場者数	展示解説会
1 長岡杉林遺跡 Part1	令和2年7月14日～令和3年1月24日	長岡杉林遺跡出土：縄文土器、石組炉（復元）他	4,415人	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止
2 長岡杉林遺跡 Part2	令和3年1月26日～7月11日	長岡杉林遺跡出土：土師器、須恵器、縄輪陶器他	496人 (2月末現在)	#

③普及行事・講座

A 北代縄文考古楽講座

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

B 夏休み！きただい子ども縄文教室

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

C 文化の秋の縄文土器づくり

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止



北代縄文広場

④長岡地区等行事

A 長岡地区ふるさとづくり推進協議会

縄文冬まつり（世代間交流行事） 令和3年1月16日

⑤来場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり 体験	縄文グッズ づくり体験	縄文コースター づくり体験
平成 30	8,622人	695人	9,317人	84人	189人	14人
平成 31 令和元	7,695人	677人	8,372人	320人	143人	24人
令和 2 (令和3年2月末 現在)	5,501人	0人	5,501人	新型コロナ ウイルス感染症 の感染防止 のため中止	同左	同左

(参考) 平成11年4月～令和3年2月末の来場者数累計 198,663人

(2) 安田城跡歴史の広場

①管 理

A 管理等

a 管理

管理人1人が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内等を行いました。

b 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、各種イベントの開催見直しを行うとともに、安田城跡資料館への一度の入館者を15人程度、土壙展示施設への一度の入館者を3人程度としました。

C 環境整備

清掃業務及び広場の環境整備（芝刈・樹木剪定・除草・睡蓮間引き）は、公益社団法人富山市シルバー人材センター及び財団法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託しました。この他、老朽化設備の修繕（資料館木柵、資料館ファミリートイレ洗面所用水栓金具、資料館展望施設案内板）を行いました。

B その他

「第15回越中富山ふるさとチャレンジスタンプラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）に協力しました。

令和2年5月26日～令和2年10月18日



安田城跡歴史の広場

②ミニ企画展

テーマ	期 間	主な展示品	来場者数	展示解説会
1 新庄城と 戦国時代 の越中	令和2年12月15日 ～3年7月18日	新庄城跡出土：中世土師器・古漁戸・青白磁・青磁・珠洲・石臼・曲物等	1,405人 (2月末現在)	新型コロナウイルス 感染症の感染防止の ため中止

③普及行事・講座

A 夏休み子ども歴史講座

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

④朝日地区等行事

A 安田城月見の宴

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止

⑤来場者数

年度	個人	団体	合計
平成 30	19,701 人	2,032 人	21,733 人
平成 31・令和元	18,100 人	2,373 人	20,473 人
令和 2(令和 3 年 2 月末現在)	14,750 人	27 人	14,777 人

(参考) 平成 5 年度～令和 3 年 2 月末の累計来場者数 288,092 人

(3) 史跡王塚・千坊山遺跡群

①維持・管理

A 倒木処理・樹木伐採

千坊山遺跡では、倒木等の転落による事故などを未然に防止するため、北側及び北東側斜面上の市有地にある倒木等 14 本相当の処理を行いました。また、雪害防止のため西側斜面上の倒木等 3 本の伐採・搬出等の処理を行いました。

向野塚墳墓では、竹林（約 518 m²）の伐採・搬出等の処理を行いました。

B 除草管理

千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・勅使塚古墳（市有地約 60,975 m²）の除草を、公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により実施しました（6～11 月）。

(4) 史跡等の巡視及び管理

①文化財バトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員による定期的な史跡・埋蔵文化財等の巡視。

直坂遺跡、猪谷閑跡、東黒牧上野遺跡、越中丸山焼陶窯跡、面白寺跡、五輪塔、中地山城跡及び殿様馬乗石、五輪塔古石塔群、伝畠山重忠墳墓、金草第一古窯跡、城生城跡、主馬ヶ城跡大道城跡、尾烟城跡

②除草・環境整備

公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により、下記の場所での除草や環境整備を実施しました。

堀 I 遺跡（6・8・9 月）、友坂二重不整合（6・8 月）、押上遺跡（5 月）・栗山塚（5・8 月）、古沢塚山古墳（7 月）、境野新遺跡（6・9 月）

4 展示・普及

(1) 発掘速報展

①発掘速報展 2020

「ここまで分かった! 富山市の中世城館!!」

会 場：安田城跡資料館

期 間：令和2年7月21日～12月13日

展示遺跡：黒崎種田遺跡、願海寺城跡、
大峪城跡、富山城跡

主な展示品：【黒崎種田遺跡】井戸祭祀復元、
中世土師器・金付き中世土師器・
珠洲・八尾・越前・古瀬戸・青磁・
白磁・刀装具・箸・下駄・砥石・
石臼・馬の骨

【願海寺城跡】中世土師器・珠洲・
越前・青磁・白磁・曲物・被熱
部財・礫・被熱礫

【大峪城跡】中世土師器・壇

【富山城跡】中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・五輪塔空風輪

入館者数：6,473人



黒崎種田遺跡の井戸祭祀復元展示

(2) 兼務関係施設の企画展

①富山市考古資料館（民俗民芸村所管 細辻専門学芸員兼務）

テーマ	期間	主な展示品・関連行事	来館者数
企画展 「寄贈コレクション展 —集める人・その思い—」	令和2年6月20日 ～12月6日	北代遺跡(早川コレクション)：大珠 (富山県埋蔵文化財センターから借用) 布尻遺跡：縄文土器(富山県埋蔵文化財センターから借用) 栗山コレクション：石鐵・石器・石製品・玉類・縄文土器・地図・書簡 石淵コレクション：石鐵・石器・石製品・玉類・縄文土器・土師器・須恵器 青江コレクション：石鐵・石器・石製品・玉類・大珠・縄文土器	2570人
	令和2年6月27日	展示解説会(細辻専門学芸員)	3人
	令和2年7月4日	記念講演会「富山市考古資料館所蔵のコレクション資料について」 藤田富士夫氏 (富山市埋蔵文化財センター元所長)	24人

(3) 講 座

①富山市民大学（富山市民学習センター主催）

中世城館を巡る考古学

回	講 師	学習題	開催月日
1	堀内大介専門学芸員	豊臣方の越中攻め最前線－白鳥城・大峪城－	9月18日
2	泉田侑希学芸員	富山市南部の中世城館－飛驒街道周辺－	10月2日
3	堀沢祐一所長	富山市北部の中世城館－岩瀬・水橋地域周辺－	10月16日
4	野垣好史主査学芸員	中世富山町の成立から中世富山城へ	10月30日
5	野垣好史主査学芸員	近富山城と城下町	11月13日

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、4～8月の5回は中止

②市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

回	講 師	演 題	主催者／会場	参加者数	月 日
1	鹿島昌也 専門学芸員 野垣好史 主査学芸員	黒崎種田遺跡の発掘調査	富山市立鶴川小学校／ 鶴川小学校 3年生教室	118	9月 7日
2	堀内大介 専門学芸員	朝日校区の遺跡 ～友坂遺跡・安田城跡～	富山市立朝日小学校／ 朝日小学校視聴覚室	13	10月 9日
3	堀沢祐一 所長 鹿島昌也 専門学芸員	西田地方校下歩こう会 —郷土史発行記念—	西田地方校下体育協会／ 西田地方校下周辺	45	11月 8日
4	細辻嘉門 専門学芸員	地区の遺跡探訪	上塙長寿会／上塙公民館	30	11月 26日
5	細辻嘉門 専門学芸員	杉谷古墳群の特徴、杉谷 4号墳のなりたちと最新 知見	NPO法人きんたろう倶楽部 ／杉谷4号墳現地	12	12月 19日

③その他講座

回	講 師	演 題	主催者／会場	月 日
1	鹿島昌也 専門学芸員	蛭川氏関連の館跡か？ —富山市黒崎種田遺跡—	県民考古学講座／富山県埋蔵文化財 センター	7月 5日
2	野垣好史 主査学芸員	金沢城と富山・高岡地域 の瓦—富山城—	石川県金沢城・兼六園管理事務所／ 石川県立美術館ホール	12月 10日
3	小黒智久 郷土博物館 館長代理	復元建物の長期維持 環境調査の成果 —北代縄文広場—	兵庫県立考古博物館／オンライン開催	2月 19日

(4) その他

①マスコミ取材対応

- A 北日本新聞「『病院』銘入り陶器瓶について」 鹿島専門学芸員 令和2年6月6日
- B 北日本新聞「SORA フォトとやま 安田城跡」コーナー 土橋管理人 令和2年6月6日
- C 富山新聞・毎日新聞・北日本新聞「考古資料館企画展について」 細辻専門学芸員
令和2年6月19日、20日
- D 北日本新聞・富山新聞・NHK富山「発掘速報展 2020について」 鹿島専門学芸員・堀内専門学芸員
令和2年7月20日、21日
- E FMとやま「発掘速報展 2020について」 堀内専門学芸員 令和2年7月20日
- F 北日本新聞「わくわく富山湾」考古・歴史編「えびす様」について 鹿島専門学芸員
令和2年8月24日
- G 北日本新聞「校区の寺社や史跡巡る「郷土史発行記念歩こう会」」 堀沢所長・鹿島専門学芸員
令和2年11月11日
- H 北日本新聞「きょうもにっこり」コーナー 宮田学芸員 令和2年11月13日
- I 富山新聞「杉谷古墳群を学ぶ」 細辻専門学芸員 令和2年12月20日
- J 読売新聞北陸支社「北陸小旅行」コーナー 宮田学芸員 令和3年1月29日
- K 富山シティエフエム「長岡杉林遺跡 Part2について」 小松専門学芸員 令和3年2月2日

5 刊行物

(1) 発掘調査報告書

- №101 富山市黒崎種田遺跡発掘調査報告書 (2020.8)
№102 富山市番神山古墳・番神山横穴墓群発掘調査報告書 (2020.11)
№103 富山市友坂遺跡発掘調査報告書 (2020.12)

(2) PR誌・展示図録等

- 『富山市の遺跡物語』 №22 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 (2021.3)
『北代縄文通信』第49号 (2021.3)

6 活用

(1) 出土品貸出

貸出先	展示名	展示期間	資料名
1 射水市新湊博物館	企画展「射水の城 神保の城」	R2.4.10 ～R2.7.15	富山城跡出土の遺物 25点
2 大山歴史民俗資料館	企画展「薬師岳入門ーその歴史と自然ー」	R2.10.17 ～R2.12.13	薬師岳山頂の採集遺物 13点、写真9点
3 富山市郷土博物館	常設展「各地の中世城館出土品 願海寺城」	R3.2.6 ～R4.2.6	願海寺城跡出土の遺物 10点、写真2点

(2) 写真等資料掲載

- ①黒崎種田遺跡の現地説明会資料 ジャパン通信情報センター『文化財発掘出土情報』(令和2年6月1日刊行)
②杉谷古墳群・杉谷A遺跡の復元図1点 新泉社『森浩一の古代学をつなぐ』(令和2年8月21日刊行)
③吉野銀山遺跡の写真・図表11点 黒部市歴史民俗資料館『新川の鉱山物語ー近世から近代ー』
展示、展示解説図録に使用(令和2年8月21日～)
④白鳥城跡の写真4点 協同組合インフォメーションテクノロジー関西 JR東日本、JR西日本、Yahoo!JAPANのホームページ内、おでかけ情報ページに使用
⑤富山市内出土木簡の実測図・写真一式 木簡学会『木簡研究』インターネット公開
⑥富山城跡出土焼夷弾の写真2点 「富山大空襲の記憶」富山市ホームページに掲載
⑦白鳥城跡の写真2点 毎日新聞大阪開発版 每日旅行募集チラシ、ホームページに掲載
⑧北代遺跡出土のクジラ骨1点 藤田富士夫 北日本新聞ぶんぶんジュニア欄へ掲載
⑨北代縄文広場の写真1点 Webメディア HondaKidsに掲載
⑩安田城跡の写真1点 読売新聞富山県版、石川県版、福井県版に掲載

(3) 資料調査・見学等

- ①令和元年12月25日～令和3年3月31日 東京大学総合研究博物館 宮田佳樹氏 小竹貝塚
出土縄文土器
②令和2年9月17日 富山考古学会 上野章氏 直坂II遺跡出土押型文土器(亀田正夫氏資料)
③令和2年9月29日 富山考古学会 上野章氏 旧小杉町 天池遺跡・平岡窯跡出土円面硯
(山内賢一氏資料)
④令和2年10月13日 兵庫県立考古博物館 岡本一秀氏 北代縄文広場
⑤令和2年12月3日 独立行政法人国立文化財機構 金田明大氏 黒崎種田遺跡・長岡杉林
遺跡出土暗文土器

7 調査研究

(1) 調査協力・共同研究

①小矢部市教育委員会

令和2年5月3日 俱利伽羅三十三観音像の帶磁率調査協力 野垣好史主査学芸員

②小矢部市教育委員会

令和2年6月24日 俱利伽羅三十三観音像の帶磁率調査協力 野垣好史主査学芸員

③石川県金沢城調査研究所

令和2年11月20日 第1回金沢城関連城郭等情報連絡会 「金沢城跡（二ノ丸・敷地屋敷西）発掘調査」の見学 野垣好史主査学芸員

④石川県津幡町教育委員会

令和2年11月21日 俱利伽羅三十三観音像の帶磁率調査協力 野垣好史主査学芸員

⑤石川県金沢城調査研究所

令和3年1月28日 第2回金沢城関連城郭等情報連絡会 報告「金沢城と富山・高岡地域の瓦一富山城一」 野垣好史主査学芸員

(2) 論文・報告・紹介 富山市内の遺跡に関連するものを含む

①関係職員等

鹿島昌也 2020.6 「美濃焼（多治見九谷）酒盃流通の一系統—近代富山の陶器商跡出土品の東京五輪盃などをモデルに—」『日本考古学協会第86回総会研究発表要旨』 日本考古学協会

鹿島昌也 2020.7 「富山県地方史研究の動向」『信濃』第72巻第7号 信濃考古学会

鹿島昌也 2020.9 「越川氏関連の館跡か？—富山市黒崎種田遺跡—」『埋文とやま』第152号 富山県埋蔵文化財センター

鹿島昌也 2021 「遺跡からみた越川館の成立—宮道・越川氏の拠点を辿って—」『富山市の遺跡物語』No.22 富山市埋蔵文化財センター

納屋内高史 2020 「動物遺存体・人骨・骨角器の分析による石川県新保本町チカモリ遺跡の再検討」『動物考古学』37 日本動物考古学会

納屋内高史 2021 「中世越中のウマについて」『富山市の遺跡物語』No.22 富山市埋蔵文化財センター

藤田富士夫 2020.5 「富山県の考古学史」『考古学ジャーナル』No.739 ニュー・サイエンス社

藤田富士夫 2020.9 「翼羽と機織り」『富山湾 豊かな自然と人びとの営み』 桂書房

堀内大介 2021 「板木町出土の中世遺物」『富山市の遺跡物語』No.22 富山市埋蔵文化財センター

堀沢祐一 2020.5 「古代まじないの世界」『雷鳥』第254号 県民カレッジ友の会

堀沢祐一 2021 「中世・越中国の木製祭祀遺物について」『富山市の遺跡物語』No.22 富山市埋蔵文化財センター

②市内遺跡を取り扱ったもの等

上野 章 2020.10 「富山市室住池I窓跡群採取遺物」『富山考古学会連絡紙』第265号 富山考古学会

岡本淳一郎 2020.11 「16 富山県」『日本考古学年報』72 日本考古学協会

片山博道 2020.8 「16 富山県」『日本考古学年報』71 日本考古学協会

庄田知充 2021.1 「(4)北陸地方」『東洋陶磁学会会報』第94号 東洋陶磁学会

町田賢一 2020.5 「北陸の貝塚」『縄文時代』第31号 縄文時代文化研究会

富山大学人文学部考古学研究室 2020.3 「杉谷1番塚古墳 第1次発掘調査報告書」

(3) 講演・研究発表 富山市内の遺跡に関連するものを含む

福村修「縄文時代のお魚事情」令和2年度県民考古学講座 令和2年11月8日

覚張隆史「小竹貝塚出土骨の分析から」令和2年度県民考古学講座 令和3年1月17日

- 泉田侑希「柄谷南遺跡の瓦はどうやって作られた?」第13回北陸貝塚研究会 令和2年10月10日
- 高橋浩二「富山市杉谷1番塚古墳の発掘について」富山考古学会令和2年度総会 令和2年2月1日
- 高柳由紀子「小竹ムラに生きた犬」令和2年度県民考古学講座 令和3年2月21日
- 野垣好史「富山市黒崎種田遺跡の発掘調査」富山考古学会令和2年度総会 令和2年2月1日
- 野垣好史「富山城の瓦」第12回北陸貝塚研究会 令和2年8月23日
- 野垣好史「金沢城と富山・高岡地域の瓦—富山城—」令和2年度第2回金沢城関連城郭等情報連絡会 令和3年1月28日
- 町田賢一「調査員がみた自然科学分析—北陸における現状と課題—」第11回北陸貝塚研究会 令和2年1月18日
- 町田賢一「ヤマ弥生」第14回北陸貝塚研究会 令和2年1月16日
- 不破光大「小竹貝塚出土の魚類依存体からみえること」第33回全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会 令和2年10月15日
- 松井広信「R言語を利用した京都系土師皿の研究」越中史壇会研究発表大会 令和2年11月8日
- 溝口優司「形質人類学から見た小竹人」令和2年度県民考古学講座 令和2年10月17日

8 研修等参加

(1) 令和2年度埋蔵文化財担当職員等講習会

鹿島専門学芸員・泉田学芸員 オンライン配信 令和2年8月26日

(2) 第33回全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会

堀内専門学芸員・泉田学芸員・納屋内学芸員 富山県埋蔵文化財センター 令和2年10月15日

(3) 研究集会 水中遺跡保護行政の実態III

細辻専門学芸員 オンライン配信 令和3年2月9日

(4) 令和2年度埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会

鹿島専門学芸員・泉田学芸員・納屋内学芸員 富山県埋蔵文化財センター 令和3年2月26日

9 組織・事業費

(1) 組織



(2) 事業費 (令和2年度当初)

①埋蔵文化財調査事業費	31,128 千円
(内訳) 埋蔵文化財調査費	15,503 千円
普及事業費	246 千円
施設管理事務費	15,379 千円
②文化財保護事業費	17,338 千円
(内訳) 文化財保護事業費	1,248 千円
施設管理事務費	16,090 千円
③一般管理事務費	74,470 千円

IV 出前講座感想文—鰐川小学校3年生・朝日小学校3年生—

はじめに

鰐川小学校では、9月7日に118名(4クラス)を対象にして、総合学習の時間「鰐川のすてき探偵団—鰐川に眠る「すてき」を掘り起こせ！」に講師として鹿島専門学芸員と野垣主査学芸員が登壇しました。黒崎種田遺跡など鰐川校下での発掘調査成果について紹介しました。

朝日小学校では、10月9日に14名(1クラス)を対象に、堀内専門学芸員が登壇しました。朝日小学校の下にある友坂遺跡、国史跡である安田城跡の紹介をしました。

ここでは、出前講座を聞いた子どもたちから頂いた感想を一部紹介します。

(1) 鰐川小学校3年生の感想(文章の一部を抜粋しました)

- ・野垣先生の話を聞いて歴史が好きになりました。さむらいの時代や鰐川の歴史をもっと知りたくなりました。
- ・黒崎の遺跡が30cmくらいしか掘っていないと聞いて、文化財があっさり見つかることにびっくりしました。
- ・「一休さん」の「しんえもん」さんのモデルになった、鰐川親当など、多くの歴史上の人物がいることが分かりました。もっと富山の歴史を知りたいです。
- ・心に残ったのは、昔の人の生活の跡が残っていることです。600年前のものが今でも見られるなんてすごいことだと思います。
- ・今は流れ星や神社の神様に願い事をするけれど、昔は馬の頭をお供えしたり、米をお供えしたり、昔の生活と今は違うなあと思いました。
- ・いま私たちが使っているお皿も、未来に発掘されるのかなと思いました。
- ・昔の人が使っていたお皿を見て、こんなお皿を使っていたんだなと驚きました。発掘した物が、何年前の物なのかがどうして分かるのか不思議に思いました。
- ・昔の人の使っていた物の中にお皿がありました。どんな食べ物を食べてたのかなと思いました。鰐川の地下には、遺跡がいっぱいあるんだな。
- ・今日は、屋敷の跡に井戸がななめにまっすぐ並んでいました。本当に不思議だと思います。こんなに土器や遺跡がある鰐川は素敵だと思いました。
- ・鹿島さんの話を聞いて、ぼくも土器を見つけたいなと思いました。3,500年前にもここに人がいたとはびっくりしました。学校の周りにもどきがあるとは思ってもみませんでした。
- ・鰐川校区で見つかった遺跡があると知ってびっくりしました。朝菜町公園でも見つかったと聞きました。小学校の周りに遺跡がいっぱいあるのはびっくりでした。



出前講座のようす(鰐川小学校)

(2) 朝日小学校3年生の感想(文章の一部を抜粋しました)

・むかしの人は井田川の水がこない所にすむくふうをしていることが分かりました。朝日小学校のまわりにはいっぱいせきがあるのがしれてよかったです。

・学校のランチルームの場所にも遺跡があったことに、ぼくは一番おどろきました。

・友坂遺跡は、学校のプールやランチルームの下にあることが分かりました。とくに、プールの下に屋しきがあり、その上を泳いでいたことにはおどろきました。

・遺跡の数が、市内1044か所と県内約4400か所と聞いてびっくりしました。他にも遺跡がたくさんあって、そのうち5つが朝日校下に集まっていました。これから、どんなものが残っているのか調べたいです。

・「侍が戦うための城だから、がけ（どりい）を作った」など、お城の工夫を教えてくださった、堀内さん、ありがとうございました。

・「学校のプールを作るときに友坂遺跡をこわした」と聞いて、もったいないと思いました。友坂遺跡はプールの下ほどの広さだと思っていたけれど、校舎や保育所などに広がっていることを知り、おどろきました。

・一番心に残ったのは、田んぼの中にはあった土器は、落とし物として拾った人が交番にとどけなければならないことです。

また、「佐々成政」が戦う場所だとしってうれしかったです。とてもきちょうな「遺物」をさわらせてくださってありがとうございます。私もきょうみがわきました。

・わたしは、友坂遺跡や安田城のことは自主学習ノートにまとめていました。今回、安田城は佐々成政や織田信長、豊臣秀吉が関係している遺跡だと初めて知りました。土器にさわることができるうれしかったです。ありがとうございます。

・安田に住んでいたけれど安田城のことをあまり知りませんでした。これから身近なものをもっとよく調べます。

・初めて聞いたことがたくさんありました。安田城のくふうや友坂遺跡の写真などでいろいろわかりました。

青磁や白磁など発くつした物も見せていただき、昔の物がこんなにきれいに残っていることにおどろきました。ありがとうございます。



出前講座のようす(朝日小学校)

はじめに

現在の桜木町は、江戸時代には、近世富山城の東出丸や千歳御殿があった場所である。近年、桜木町内で試掘調査を行った結果、近世の遺構・遺物は後世の削平などによりほぼ確認されなかつた。一方で、近世より古い中世の遺構・遺物が確認された。

ここでは、その試掘調査で出土した中世遺物（主に中世土師器皿）を紹介し、中世の頃の桜木町について触れてみたい。

1 土師器皿の分類

土師器皿の分類は、筆者が以前に作成した分類（堀内 2019）を使用した。そこに新たに京都系C 4類を追加する。

在地系A類…口縁端部に幅狭の一段ナデを施す。

京都系C 1類…口縁部はヨコナデして外反する。

京都系C 2類…口縁部はヨコナデして短く外反する。

京都系C 3類…口縁部はヨコナデして外反。口縁部内面に端面を形成する。

京都系C 4類…体部外面の指頭圧痕で口縁部が外反し、口縁端部にヨコナデを施す。

能登系D類…胎土に海綿骨針が混じる。

2 調査概要

（1）A 地点

平成 30 年 8 月に駐車場整備工事に伴い試掘調査を行った。7 本のトレンチを設定した。土坑・溝・ピット・堀を検出し、土坑、堀から中世土師器皿、珠洲が出土した。

1T-SK07 直径 0.4m、深さ 0.3m の（半）円形の土坑である。1 は中世土師器皿で、京都系 C 1 類である。口縁端部は丸くおさめる。2 は珠洲の壺で、珠洲IV～V 期に比定される。内面に二次被熱がみられる。遺構の時期は 15 世紀後半である。

1T-SK08 直径 0.7m、深さ 0.25m の（半）円形の土坑である。3・4 は中世土師器皿で、京都系 C 1 類である。口縁端部は丸くおさめる。3 は内底面に凸縁線が認められる。4 には内外面に二次被熱がみられる。遺構の時期は 16 世紀前半である。

1T-SK13 直径 0.8m、深さ 0.38m の（半）円形の土坑である。5・6 は中世土師器皿である。5 は京都系 C 3 類で、口縁端部は丸くおさめる。内面に 2 の字状ナデ上げが認められる。6 は切り込み円板手法で成形されており、明瞭なつなぎ合わせ部分が認められる。口縁端部は丸くおさめる。内面に二次被熱がみられる。遺構の時期は 16 世紀代である。

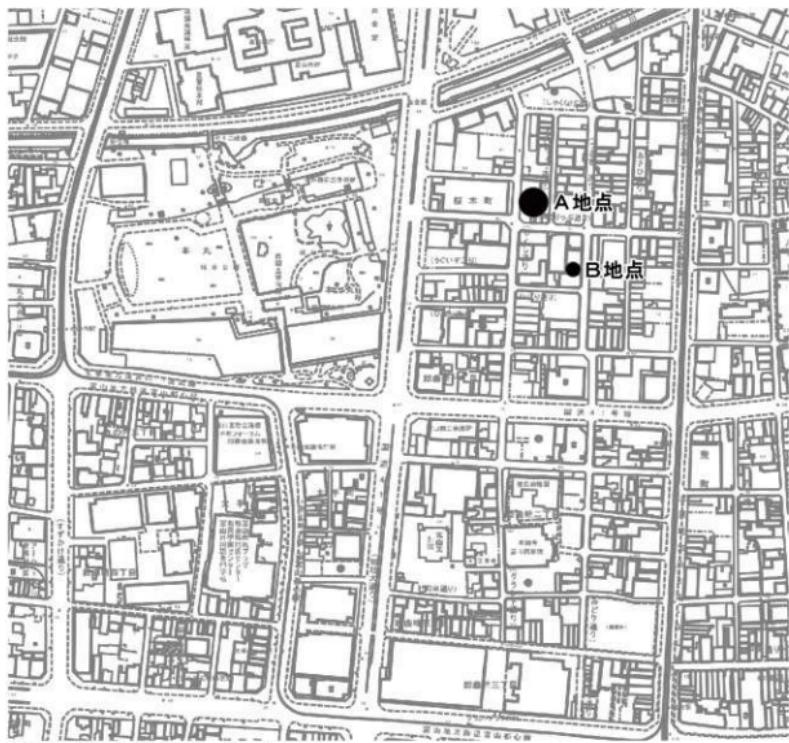
3T-SD 幅 4.5m 以上、深さ 0.6m の堀である。主軸方向は N-1° -E である。7 は中世土師器で、在地系 A 類である。口縁端部をつまみ上げる。遺構の時期は 16 世紀代である。

4T-SX トレンチ全体が大型の遺構と考えられるが、詳細は不明である。8・9 は中世土師器皿で、8 は京都系 C 2 類で、口縁端部をつまみ上げる。9 は京都系 C 1 類で、口縁端部は丸くおさめる。遺構の時期は 16 世紀前半である。

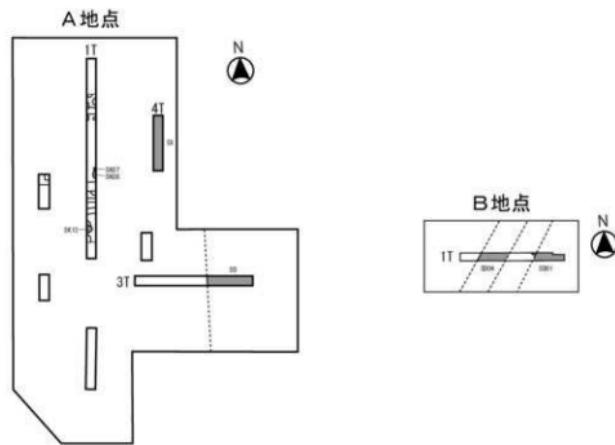
（2）B 地点

平成 31 年 4 月にビル建築工事に伴い試掘調査を行った。1 本のトレンチを設定した。大溝 2 本を検出し、溝から大量に廃棄された中世土師器皿などが出土した。

1T-SD01 幅 2.0m 以上、深さ 0.5m 以上の溝である。主軸方向は N-30° -E である。10～23



第1図 調査位置図 (1 : 5, 000)



第2図 トレンチ配置図 (1 : 500)

A地点

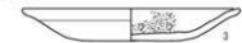
1T-SK07



3T-SD



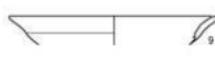
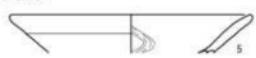
1T-SK08



4T-SX

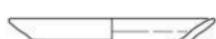
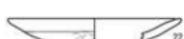
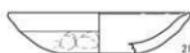
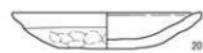
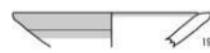


1T-SK13

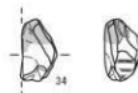
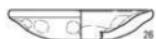


B地点

1T-SD01



1T-SD04



■ 叟
■ 油煙
■ 被熱

0 1 2 3 10cm

第3図 出土遺物 (S=1/3)

番号	出土箇所	出土層	種類	形状	寸法	目次	記述	名前		成形・焼成		備考	
								内面	外面	内面	外面		
1			1807 中世土器	皿	15.0		素	灰	10707/4 に古い黄褐色	10707/4 に古い黄褐色	ヨコナラ 平行ナラ	C 1 頭	
2			1807 茶碗	皿			素	灰	94 黄褐色	94 黄褐色	ヨコナラ 平行ナラ	表面吹き下す茶 味付	
3	A地区	17	1808 中世土器	皿	13.4	1.05	4.0	素	灰	10706/2 正面褐色	10706/3 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ 平行ナラ	C 1 頭 C 1 頭
4			1808 中世土器	皿	14.8	1.10	素	灰	10707/4 に古い黄褐色 10708/1 に古い黄褐色 10708/2 に古い黄褐色 10708/3 に古い黄褐色	10707/4 に古い黄褐色 10708/1 に古い黄褐色 10708/2 に古い黄褐色 10708/3 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ ヨコナラ ヨコナラ	表面吹き下す茶 味付	
5			1813 中世土器	皿	9.0	1.05	素	灰	10707/4 に古い黄褐色	10707/4 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭 C 1 頭	
6			1813 中世土器	皿	14.9		素	灰	10707/4 に古い黄褐色(破損)	10707/4 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	内部吹き 取り込み内削手付	
7		18	1807 中世土器	皿	4.2	0.40	素	灰	10707/4 に古い黄褐色	10707/4 正面褐色	ヨコナラ ヨコナラ	A頭 A頭	
8			1807 中世土器	皿	9.3	1.70	素	灰	10707/4 に古い黄褐色	10707/4 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭 C 1 頭	
9			1807 中世土器	皿	13.0		素	灰	10707/4 に古い黄褐色	10707/4 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭	
10			1801 中世土器	皿	7.8	1.8	1.2	素	灰	10707/4 に古い黄褐色	10707/4 に古い黄褐色 10707/5 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 4 頭 C 4 頭
11			1801 中世土器	皿	8.7	1.4		素	灰	10708/2 背面褐色 10707/4 に古い黄褐色(破損)	10708/3 背面褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 4 頭 C 4 頭
12			1801 中世土器	皿	10.2	1.45		素	灰	10707/4 に古い黄褐色(破損)	10707/4 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 4 頭 C 4 頭
13			1801 中世土器	皿	9.4		素	灰	10707/4 に古い黄褐色(破損)	10707/4 に古い黄褐色(破損)	ヨコナラ ヨコナラ	C 4 頭 C 4 頭	
14			1801 中世土器	皿	12.0			素	灰	10708/2 背面褐色 10707/4 に古い黄褐色(破損)	10708/3 背面褐色 10707/4 に古い黄褐色(破損)	ヨコナラ ヨコナラ	C 4 頭 C 4 頭
15			1801 中世土器	皿	10.0	1.10	素	灰	10707/4 褐色	10707/4 褐色	ヨコナラ ヨコナラ	D 頭	
16			1801 中世土器	皿	10.2		素	灰	10707/4 に古い黄褐色(破損)	10707/4 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭 C 1 頭	
17			1801 中世土器	皿	10.0	1.0	4.0	素	灰	10707/4 背面褐色	10707/5 背面褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭
18			1801 中世土器	皿	8.4	2.15	3.0	素	灰	10707/4 に古い黄褐色	10707/4 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭 C 1 頭
19			1801 中世土器	皿	12.0			素	灰	10708/2 背面褐色 10707/4 に古い黄褐色(破損)	10708/3 背面褐色 10707/4 に古い黄褐色(破損)	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭 C 1 頭
20			1801 中世土器	皿	11.4	2.20	3.0	素	灰	10707/4 背面褐色	10707/5 背面褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭 C 1 頭
21			1801 中世土器	皿	11.2	2.15	3.0	素	灰	10707/4 に古い黄褐色	10707/5 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭 C 1 頭
22	B地区	17	1802 中世土器	皿	16.6	11.0	素	灰	10702/3 に古い黄褐色	10702/3 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭	
23			1802 中世土器	皿	12.4		素	灰	10702/4 に古い黄褐色	10702/4 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭	
24			1802 膜戸	天井			素	灰	10702/4 背面褐色	10702/4 背面褐色	ヨコナラ ヨコナラ	天井	
25			1804 中世土器	皿	8.8	1.4	3.5	素	灰	10707/4 に古い黄褐色	10707/3 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭 C 1 頭
26			1804 中世土器	皿	9.3	1.9	3.5	素	灰	10707/3 に古い黄褐色	10707/3 に古い黄褐色	ヨコナラ ヨコナラ	A 頭
27			1804 中世土器	皿	10.3			素	灰	10707/4 に古い黄褐色(破損)	10707/4 に古い黄褐色(破損)	ヨコナラ ヨコナラ	C 4 頭 C 4 頭
28			1804 中世土器	皿	11.0	0.0		素	灰	10707/4 背面褐色	10707/4 背面褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 4 頭 C 4 頭
29			1804 中世土器	皿	11.5			素	灰	10707/4 に古い黄褐色(破損)	10707/4 に古い黄褐色(破損)	ヨコナラ ヨコナラ	C 4 頭 C 4 頭
30			1804 中世土器	皿	10.6			素	灰	10707/4 背面褐色	10707/4 背面褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭
31			1804 中世土器	皿	11.4	12.22		素	灰	10707/4 背面褐色(破損)	10707/4 に古い黄褐色(破損)	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭 C 1 頭
32			1804 中世土器	皿	11.8	2.15	3.4	素	灰	10707/2 背面褐色 10706/2 背面褐色(人X)	10706/3 背面褐色(人X) 10706/4 に古い黄褐色(破損)	ヨコナラ ヨコナラ	内部吹き 取り込み内削手付
33			1804 中世土器	皿	10.6			素	灰	10707/4 に古い黄褐色(破損)	10707/5 背面褐色	ヨコナラ ヨコナラ	C 1 頭
34			1804 陶					素	灰	10708/4 (裏面褐色)	10708/4 (裏面褐色)	ヨコナラ ヨコナラ	手形

第1表 遺物観察表

は中世土師器皿で、10~14は京都系C4類、16~21は京都系C2類、22・23は京都系C1類である。10・13・20・21は口縁端部をつまみ上げる。その他は口縁端部を丸くおさめる。11・12・16には内面に、13・14・19には外外面に二次被熱がみられる。15は能登系D類で、口縁端部をつまみ上げる。在地の土師器皿に比べて胎土が赤い、胎土に海綿骨針が混じる、器壁が4mmで薄いという特徴がみられる。能登の土師器皿編年(岩瀬2019)から16世紀前半～中頃と考えられる。24は瀬戸美濃の天目茶碗で、大窯期のものである。遺構の時期は16世紀前半～中頃である。

1T-SD04 1T-SD01に平行して走る幅1.7m、深さ0.3mの溝である。25~33は中世土師器皿で、25は在地系A類、26~29は京都系C4類、30~32は京都系C2類、33は京都系C1類である。26・27は口縁端部をつまみ上げる。その他は口縁端部を丸くおさめる。27・29・31・32には外外面に二次被熱がみられる。34は埠で、壁面に砂が付着する。一部に二次被熱がみられる。遺構の時期は16世紀前半～中頃である。

3まとめ

出土遺物を見ると、概ね16世紀前半～中頃の遺物である。この頃の桜木町周辺は、東西4里、南北3条の条里地割を持つ中世莊園・富山柳町が広がっていたと推定される地域である(富山市教委2018)。遺構・遺物はこの富山柳町に関連するものと考えられる。しかし、B地点1T-SD01の主軸方向がN-30°-Eであり、条里地割の主軸方向N-11°-Eと大きく異なることは気になるところである。ただし、富山城本丸東辺土塁の調査でも条里地割と異なる室町時代の溝などが検出されている(富山市教委2016)。このことから、桜木町～本丸東辺土塁周辺は条里とは異なる地割の遺構が広がっていたものと考えられる。

また、遺物の大半が二次被熱している点が注目される。特に、B地点ではその被熱した遺物が大溝へ一括廃棄されていた状況である。この遺物の被熱と廃棄の要因について考察する。

天文12(1543)年頃に神保長職が富山柳町を含む中世莊園・太田保への進出の足掛かりに中世富山城を築城した結果、そのことで神保氏と椎名氏が争った天文の大乱(1543~1544年)が発生し、「富山周辺において神保氏と椎名氏との間にかなり大規模な戦闘があったと思われる」(久保1983)とされる。遺物はこの大乱の戦火によって被災し、大溝へ廃棄されたのではないかと推測する。

このように桜木町には、富山柳町や中世富山城築城前後に関連する遺構が広がることが明らかとなってきた。今後、桜木町の再開発などで調査が行われることで新たな遺構が発見され、富山柳町や中世富山城・城下町の姿が明らかになることに期待したい。

最後に、本稿を作成するにあたり、納屋内高史氏(当センター職員)に多大なるご協力を頂いた。記して謝意を表す。

参考文献

- 久保尚文 1983「富山城の形成と神保氏」「天文十二・十三年の越中大乱について」『越中中世史の研究』 桂書房
岩瀬由美 2019「加賀・能登における15世紀後半～17世紀の土器・陶磁器様相」『北陸にみる近世成立期の土器・陶磁器様相－城下町とその周辺遺跡の土師器皿（かわらけ）を中心に－』 (公財)石川県埋蔵文化財センター
越前慎子 1996「梅原胡麻堂遺跡出土中世土師器皿の編年」『梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』 (財)富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
富山市教育委員会 2016『富山城跡発掘調査報告書』(富山市埋蔵文化財報告81)
富山市教育委員会 2018『富山城跡発掘調査報告書』(富山市埋蔵文化財報告93)
堀内大介 2019「越中における近世成立期の土師器皿の諸様相－富山城跡出土資料から－」『北陸にみる近世成立期の土器・陶磁器様相－城下町とその周辺遺跡の土師器皿（かわらけ）を中心に－』 (公財)石川県埋蔵文化財センター
宮田進一 1992「越中における中世土師器の編年」『中世前期の土器・陶磁器・漆器』北陸中世土器研究会
宮田進一 1997「越中における土師器の編年」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会
森 隆 2003「富山県の中世土器（資料編）」『富山考古学研究』第6号 (財)富山県文化振興財团埋蔵文化財事務所
森 隆 2005「富山県の中世土器（資料編2）」『富山考古学研究』第8号 (財)富山県文化振興財团埋蔵文化財事務所

納屋内 高史
(埋蔵文化財センター学芸員)

はじめに

ウマ (*Equus caballus*) は、古来より食用の他、役畜として騎乗用や農耕用、輸送用(駄馬)など様々な用途に用いられてきた人間活動にとって重要度の高い動物である。日本列島内には本来生息しない動物であり、その導入は 4 世紀代に畿内や中部高地で散発的に確認されるものの、本格的な渡来は須恵器の生産が開始される 5 世紀中葉以降である(積山 2019)。これまでの国内における過去のウマに関する研究は、出土馬具、出土馬骨や『日本書紀』『延喜式』等の文献資料の記述を基にした古墳時代から古代におけるウマの生産・飼育や利用形態の研究(松井 1987、青柳他編 2019、吉川 1991 等)が中心である。中世以降については、それ以前の時代と比べると少なく、特にウマそのものについての研究は、鎌倉周辺の遺跡出土馬骨の研究(林田 1957、西本 1999 等)などがあるものの、地域的、対象的に限られている状況にある(長塚 2020)。特に北陸地域は、ウマの遺存体のまとまった出土例が少ないとことから、生産・飼育や利用の様相については不明確な部分が多い。

このような状況を鑑みて、本稿では越中から出土したウマの遺存体のうち、特に中世遺跡から出土したものについて報告書の記載等から年齢、体高の推定が可能な事例を概観することを通じて中世越中におけるウマの利用状況について検討を加え、中世北陸におけるウマの利用形態の考究の一助とした。

1. 中世越中におけるウマの出土事例の検討

ここでは富山県内の遺跡から出土した中世のウマのうち、骨格部位の計測値が報告されているもの、および大きさの計測が可能なもの、および諸般の事情から計測がかなわなかったものの部位と掲載写真からおよその大きさがわかるものを集成し、骨格部位からの年齢、体高推定式を用いて年齢、体高の検討を行った。年齢、体高推定式は、林田・山内(1957)、西中川他(2015)、西中川他(2020)掲載のものを用いた。

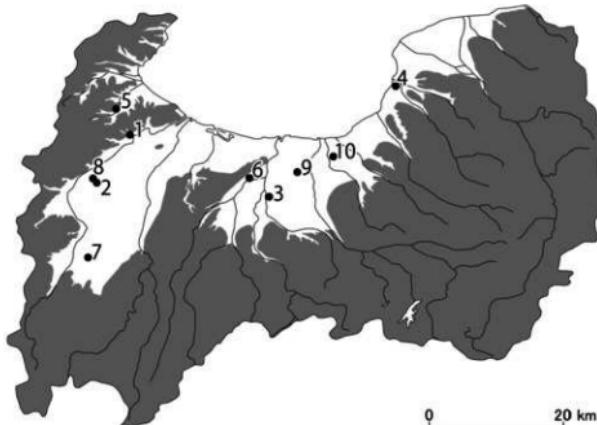


図 1: 集成対象遺跡の位置 (遺跡番号は表 1 の No. と一致)

表1:中世越中における年齢・体高推定可能なウマの出土事例と推定年齢・体高

No.	遺跡名 (性別)	所在地	出土場所	時期	出土部位	計測値(cm)※	推定年齢 (歳)	推定体高 (cm)	出土状態	備考
1	岩坪岡田島遺跡 (一般集落)	高岡市岩坪	SD11, SD1付近 包含層	12C~14C	馬(上頭PL) 馬(上頭MR) 馬(上頭PL) 馬(上頭MR) 馬(下頭PL) 馬(下頭MR) 馬(上頭PL) 馬(上頭MR)	馬冠高 58.0 馬冠長 27.5 馬冠高 58.0 馬冠長 28.0 馬冠高 57.0 馬冠長 28.2 馬冠高 56.5 馬冠長 27.1 馬冠高 56.0 馬冠長 27.2 馬冠高 56.0 馬冠長 27.0 馬冠高 63.5 馬冠長 25.5 馬冠高 62.5 馬冠長 25.0	4.9 5.0 5.7 5.9 5.9 6.8 5.3 5.2	122.2 128.5 128.5 124.3 130.8 122.2 121.0 121.0	流路埋土およびその付近からまとめて出土	SD1H(自然流路,幅2.8m深さ2.0m)流路上層と馬糞集中部付近の包含層(馬糞中)から出土
2	五社遺跡 (一般集落)	小矢部市五社	SD4001 SD4043	12C末 ~13C 13C~14C	馬(上頭PL) 馬(上頭MR) 馬(上頭PL) 馬(上頭MR) 馬(下頭PL) 馬(下頭MR) 馬(上頭PL) 馬(下頭PL)	馬冠高 62.5 馬冠長 28.2 馬冠高 55.7 馬冠長 23.7 馬冠高 55.7 馬冠長 28.2 馬冠高 55.0 馬冠長 28.0 馬冠高 56.0 馬冠長 27.8 馬冠高 56.0 馬冠長 27.0 馬冠高 49.1 馬冠長 25.8*	5.1 4.8 7.1 7.1	126.5 118.1 119.0 142.8	まとまって出土 (PとMが混在)	SD4001(自然流路,幅1.0~3m深さ0.3~0.5m),頭のみ埋没
3	馬崎稲田遺跡 (武家地)	富山市馬崎	SK201 (SD1999)	13C~14C	馬(上頭PL) 馬(上頭MR) 馬(上頭PL) 馬(上頭MR) 馬(下頭PL) 馬(下頭MR) 馬(上頭PL) 馬(上頭MR)	馬冠長 29.3 馬冠長 29.3 馬冠長 29.3 馬冠長 29.3 馬冠長 29.3 馬冠長 29.3 馬冠長 29.3 馬冠長 29.3	119.7	119.7	上下歯列のみ咬合状態で出土。右側面を上に吻端部南	SK201(馬糞0.8m,頭輪0.8m深さ0.3m),馬糞か
4	仏田遺跡 (一般集落)	魚津市仏田	SK1349	14C	馬(上頭PL) 馬(上頭MR) 馬(上頭PL) 馬(上頭MR) 馬(下頭PL) 馬(下頭MR) 馬(上頭PL) 馬(上頭MR)	馬冠高 (31.3) 馬冠高 (31.6) 馬冠高 (31.6) 馬冠高 (31.6) 馬冠長 (28.3) 馬冠長 (28.1) 馬冠長 (28.0) 馬冠長 (28.0)	45以下	146.3 149.9	上下歯列のみ咬合状態で出土。左側面を上に吻端部北	SK1349(馬糞厚,長輪1.6m,幅0.7m,深さ0.2m)
5	豊能野櫻遺跡 (一般集落)	永見市豊能	SD301	14C?	馬(上頭MR) 馬冠長 (26.0)	馬冠高 (53.0)*	5.6以下	135.6	馬糞から車軸で出土	SD301(馬糞薄,幅3.8m,深さ0.8m)
6	金谷町遺跡 (生産地) (全金属生産)	富山市金谷	SD10	14C後半 ~15C	馬(上頭PL) 馬(上頭MR) 馬(上頭PL) 馬(上頭MR) 馬(下頭PL) 馬(下頭MR) 馬(上頭PL) 馬(上頭MR)	馬冠高 58.6 馬冠長 28.8 馬冠高 58.7 馬冠長 24.6 馬冠高 58.7 馬冠長 24.6 馬冠高 58.7 馬冠長 24.6 馬冠高 55.5 馬冠長 27.5 馬冠高 55.5 馬冠長 28.0 馬冠高 54.1 馬冠長 25.4 馬冠高 52.7 馬冠長 24.4	6.0 5.0 5.0 5.0 4.7 8.0 7.1 5.8	127.1 130.4 132.0 127.1 127.0 126.3 123.8 125.9	上下歯列のみ咬合状態で出土。左側面を上に吻端部北	SD10区馬糞,幅1.5m,深さ0.5m),頭のみ埋没
7	田尻遺跡 (一般集落)	南砺市田尻	SD62	15C後半 ~17C	馬(上頭PL) 馬(上頭MR)	BG-42.0SLC 58.0 成駒	126.3(SLC)	流路堆積中央	SD62(自然流路,幅4.5m,深さ2.6m)	
8	石名木田遺跡 (町村) (高岡市木舟)	小矢部市石名木田 高岡市木舟	SD7030 SD7180	15C後半 ~16C前半 15C後半 ~16C前半	馬(上頭PL) 馬冠高 71.0*,馬冠長 28.8 馬(上頭PL) 馬冠高 54.9 馬(下頭PL) 馬(下頭MR) 馬(下頭PL) 馬(下頭MR)	馬冠高 58.6 馬冠長 28.8 馬冠高 58.7 馬冠長 24.6 馬冠高 58.7 馬冠長 24.6 馬冠高 55.5 馬冠長 27.5 馬冠高 55.5 馬冠長 28.0 馬冠高 54.1 馬冠長 25.4 馬冠高 52.7 馬冠長 24.4	4.4以下 7.6 5.0 5.0 5.0 7.1 4.8 5.8	138.9 132.0 132.0 127.0 126.3 123.8 125.9	馬糞から車軸で出土 馬糞から車軸で出土 馬糞から車軸で出土 馬糞から車軸で出土 馬糞から車軸で出土 馬糞から車軸で出土 馬糞から車軸で出土 馬糞から車軸で出土	SD7030区馬糞,幅5.8m,深さ2.9m)
9	新庄城跡 (城壁)	富山市新庄町	SD2000	15C~16C (16C前半)	中手骨R 馬(上頭PL) 馬(下頭PL) 大頭L	GL-200.0(Bd) 45.0 馬冠高 GL-78.0(Bd) 52.0(Bd) 48.0 馬冠高 成駒	成駒 成駒 成駒	129.0(Bd) 121.0(Bd)	馬糞から出土	SD7180区馬糞,幅4.3m,深さ2.7m)
10	小出城 (城壁)	富山市水橋小出	SD01	16C代	中足骨R 中足骨R	馬冠高 48.8 馬冠長 33.4 馬冠高 48.8 馬冠長 33.4	3.6 3.6	143.6 143.6	数頭状態で出土	SD01区馬糞,幅3.0m以上,深さ2.0m),馬糞から出土

※○付の値は複数値及び未算定の値
■の後ろに+がついているものは生存部の値

(1) 岩坪岡田島遺跡

高岡市岩坪に所在する。富山県西部北、海岸から約8.5km離れた場所に位置し、小矢部川と西山丘陵と間に広がる微高地へ氾濫平野上に立地する。1999~2001年にかけて行われた富山県文化振興財団による本調査では、縄文時代~近世の遺構が検出されており、中世

については 12 世紀中頃～14 世紀にかけての集落が検出されている(越前他 2007)。

ウマは、12 世紀～14 世紀中頃にかけての自然流路埋土と付近の包含層から、上下の歯がまとまって出土している。重複する歯がなく、推定年齢や体高も比較的まとまるところが多くが同一個体に由来する可能性が考えられる。黒沢(2007)掲載の計測値を基に西中川他(2015)の推定式を用いて年齢を推定したところ、4.9～6.8 歳前後に収まった。また、掲載写真からおよその歯冠長を計測し、林田・山内(1957)及び西中川他(2015)の推定式を用いて体高を推定したところ、122.8～137.1 cm 前後に収まった。

(2) 五社遺跡

小矢部市五社に所在する。富山県西部、海岸から 18 km 離れた内陸部に位置し、小矢部川とその支流である岸渡川に挟まれた河岸段丘上に立地する。1992～1994 年にかけて行われた富山県文化振興財団による本調査では、古墳時代～近世の遺構が検出されており、中世については 12 世紀～14 世紀にかけての集落が検出されている(山本他 1998)。

ウマは 1992 年度調査で検出された 12 世紀末～13 世紀の自然流路と 13 世紀～14 世紀の区画溝の埋土から、上下の歯がまとった状態で出土している。特に自然流路出土資料は後述するように推定年齢、体高ともによくまとまっており、出土した遺構の深さが 0.5m 以下と浅いことも併せると、祭祀などに伴い頭部のみが埋納されていた可能性も考えられる。資料の計測値から林田・山内(1957)及び西中川他(2015)の推定式を用いて年齢、体高を推定したところ、12 世紀末～13 世紀の自然流路から出土したものは年齢 5.1～5.3 歳前後、体高 121.0～126.5 cm 前後、13 世紀～14 世紀の区画溝から出土したものは年齢 6.8～7.1 歳前後、体高 119.0～142.8 cm 前後と推定された。

(3) 黒崎種田遺跡

富山市黒崎に所在する。富山県中央部、吳羽丘陵の東側に位置し、熊野川右岸の扇状地扇端付近に位置する。2019 年度に行われた富山市教育委員会による本調査では 13 世紀～16 世紀にかけての屋敷跡が検出されており、調査地付近に居館を構えていた蛭川氏と関係する武家の屋敷地と考えられている(鹿島他 2020)。

ウマは 2019 年度調査時に 15 世紀の堀跡の底部で検出された 13 世紀～14 世紀の土坑内から、1 個体分の歯列のみ咬合状態で、右側面を上に、吻端部を南に向けた状態で出土している。出土した土坑の規模から頭部のみが埋納されていたと考えられ、何らかの祭祀に伴うものとみられる。犬歯が見られないことからメスの可能性が考えられるほか、資料の計測値から林田・山内(1957)及び西中川他(2015)の推定式を用いて年齢、体高を推定したところ、年齢 3.8～4.7 歳、体高 116.8～120.2 cm と推定された。

(4) 仏田遺跡

魚津市仏田に所在する。富山県東部北、海岸から約 1km 離れた場所に位置し、片貝川左岸の扇状地上に立地する。2009 年度に行われた富山県文化振興財団による本調査では、縄文時代～近世の遺構が検出されており、中世については 14 世紀代の集落が検出されている(青山 2013)。

ウマは 2009 年度調査時に検出された 14 世紀代と考えられる土坑内から出土している。出土状況は土坑の端から歯列のみ出土している状態である。このことと土坑の規模等も合わせ、ウマを出土した土坑は馬葬墓と推定されている(青山 2013)。計測値等は報告されていないが、年齢は推定 4.5 歳以下と報告されている(青山 2013)。また、歯列として残存する歯の内、写真からおよその歯冠長が分かるものについて林田・山内(1957)及び西中川他(2015)の推定式を用いて体高を推定したところ、体高 130.0～149.9 cm 前後と推定された。

(5) 慈領野際遺跡

氷見市慈領に所在する。富山県西北部、海岸から約 6.0 km 離れた場所に位置し、能登半島基部東部に仏生寺川とその支流によって形成された谷底平野(十三谷)の中央部に立地す

る。2003年度に行われた富山県文化振興財団による本調査では、縄文時代～中世の遺構が検出されており、中世については13世紀～14世紀にかけての集落が検出されている(島田他2010)。

ウマは14世紀代と考えられる区画溝の埋土から、歯が1点出土している。掲載写真からおよその歯冠長と残存歯冠高を計測し、林田・山内(1957)及び西中川他(2015)の推定式を用いて年齢、体高を推定したところ、年齢5.6歳前後以下、体高135.6cm前後と推定された。

(6) 金屋南遺跡

富山市金屋に所在する。富山県中央部、呉羽丘陵の東側に位置し、井田川左岸平野部の自然堤防上に立地する。1996～2001年にかけて行われた富山市教育委員会による本調査では、12～15世紀を中心とした鉄物生産を行っていた生産集落が検出されている(小林他2007)。

ウマは14世紀後半～15世紀の区画溝から1個体分の歯列のみ咬合状態で、左側面を上に吻端部を北に向かって立地する。西中川・堀沢(2007)では、出土した溝の規模から1体分がそのまま廃棄された可能性が指摘されているが、溝の深さが0.5mしかないことから祭祀に伴い頭部のみ埋納された可能性も考える必要がある。年齢、体高等は、西中川・堀沢(2007)掲載の計測値を基に林田・山内(1957)及び西中川他(2015)の推定式を用いて年齢、体高を推定したところ、年齢4.7～6.0歳、体高は123.8～132.0cmと推定された。

(7) 田尻遺跡

南砺市田尻に所在する。富山県南部西、海岸から28km離れた内陸部に位置し、小矢部川の支流である大井川右岸の河岸段丘上に立地する。1990～1991年にかけて行われた富山県文化振興財団による本調査では、12世紀後半～15世紀前半と16世紀～18世紀を主とする集落が検出されている(山本他1996)。

ウマは15世紀後半～17世紀代の自然流路埋土から肩甲骨が1点出土している。四肢骨であり、詳細な年齢推定はできないが、報告の記載から成獣のようである。金子(1996)に記載されている計測値を基に林田・山内(1957)及び西中川(2020)の推定式を用いて体高を推定したところ、体高126.4cm前後と推定された。

(8) 石名木舟遺跡

高岡市木舟と小矢部市石名田にまたがって所在する。富山県西部、海岸から10km離れた内陸部に位置し、小矢部川とその支流である岸渡川に挟まれた河岸段丘上に立地する。1993～1995年にかけて行われた富山県文化振興財団による調査では、古墳時代～近世の遺構が見つかっており、中世については15世紀末～16世紀代を主とする集落が検出されている。これについては遺跡内に所在する木舟城の城下町と推定されている(池野他2002)。

ウマは、15世紀後半～16世紀前半の区画溝2条からそれぞれ歯が1点ずつ出土している。資料の計測値から林田・山内(1957)及び西中川他(2015)の推定式を用いて年齢、体高を推定したところ、1点は年齢4.4歳以下、体高138.9cm前後、もう1点は、体高の推定ができなかったものの、年齢7.5歳前後と推定された。

(9) 新庄城跡

富山市新庄町に所在する。富山県中央部北東、海岸から約7km離れた場所に位置し、常願寺川左岸の扇状地扇端部付近に形成された自然堤防上に立地する。16世紀代の城館として知られており、江戸時代の記録によれば、規模は本丸が東西約137～142m、南北約95～127m、二の丸が約55m四方と記録されている。2013年度に行われた富山市教育委員会による本調査では15世紀中頃～16世紀にかけての城館跡が検出されている(堀内他2014)。

ウマは16世紀前半の堀の最下層付近から中手骨、基節骨、大腿骨が散乱状態で出土して

いる。四肢骨であり、詳細な年齢推定はできないが、中手骨、基節骨は骨端が癒合しており、成獣と考えられる。出土した中手骨、基節骨の計測値を基に林田・山内(1957)及び西中川(2020)の推定式を用いて体高を推定したところ、体高 121.8~129.0cm 前後と推定された。

(10) 小出城跡

富山市水橋小出に所在する。富山県中央部北東、海岸から約 3km 離れた場所に位置し、白岩川右岸の平野部の自然堤防上に立地する。16世紀代の城館であり、南北約 150m の郭を持つ平城である。2003~2005 年にかけて富山市教育委員会により本調査が行われ、16世紀代と考えられる堀跡や井戸などが検出されている(鹿島他 2007)。

ウマは 16世紀代と考えられる堀内から歯、中足骨が散乱状態で出土している。出土した資料のうち、歯について資料の計測値を基に林田・山内(1957)及び西中川他(2015)の推定式を用いて年齢、体高を推定したところ、年齢 3.6 歳前後、体高 143.6cm 前後と推定された。また、中足骨については骨端部が欠損しているものの、残存部の幅等から若~成獣のもので、体高は中型馬クラスと報告されている(吉田生物研究所他 2007)。

2. 考察

今回の分析結果も含め、越中における中世のウマの出土事例を概観すると、まず、廃棄や埋葬と考えられるものが多くを占め、祭祀の可能性が考えられるものは五社遺跡出土例と黒崎種田遺跡出土例、金屋南遺跡出土例のみである。このことから、中世越中においては、ウマの骨や肉を用いた祭祀は低調であったと考えられる。

また、体高については 115~120 cm 前後の小型馬と推定されるものと 125~130 cm 前後の中型馬と推定されるもの、135~150 cm 前後のやや大型の中型馬と推定されるもの大きく 3 種類が存在し、125~130 cm 前後と推定されるものが最も多い。このうち、115~120 cm 前後のものについては、体高の低さから騎乗用に適しておらず、民俗例等から農耕馬や駄馬として用いられたものと推定される。また、125~130 cm 前後のものと 135~150 cm 前後のものは、ともに騎乗用として利用可能と考えられるが、中世日本では体高 4 尺 8 寸(144 cm)のものが大馬と認識されていた(林田 1957)ことを踏まえれば、135~150 cm 前後のやや大型の中型馬と推定されるものについては、当時のウマとしては大型の個体といえる。

これら 3 種類の大きさの出土遺跡の年代、性格に傾向はみられない。五社遺跡や伊田遺跡といった当時の一般的な農耕集落と考えられる遺跡からも 140cm 超と考えられる様な馬が出土していることは、大型の個体であっても騎乗用だけでなく農耕用として用いられていた可能性を示すといえ、当時においてウマの大きさによる用途の使い分けはあまりなされていなかった可能性を示唆する。また、武家地からの出土例である黒崎種田遺跡と小出城からそれぞれ小型馬、やや大型の中型馬が出土している点も注目される。小出城出土のやや大型の中型馬は、その体高から先にも述べたように当時としては大型の個体といえ、遺跡の性格等も加味すれば軍馬として用いられた可能性も考えられる。これに対して、黒崎種田遺跡出土例のような小型馬は、先にも述べたように騎乗用ではなく農耕馬や駄馬として用いられたと考えられる。そのため、これら 2 遺跡における出土例は、当時の武家地において軍馬など騎乗用に用いることが可能なもののだけでなく、農耕馬や駄馬として用いるためのものも飼養されていたことを示すといえる。

最後に年齢については、推定できた事例は遺跡の性格を問わず、4~6 歳前後の若齢ものが多くを占め、10 歳以上のものはみられない。これまでの研究で、東国出土の中世のウマの年齢は 10 歳前後にピークを持つことが指摘されているが(植月 2018)、これと比較すると越中のウマの出土例は中世としてはかなり若齢に偏っていると言える。出土資料の年齢

が若齢に偏る傾向は、藤原京跡出土の古代のウマの分析結果でも指摘されており、藤原京跡出土例については、関節炎の痕跡が見られる資料の存在と併せて、ウマの損耗が激しかったと推測されている（山崎編 2016）。今回概観した出土例では、病変など酷使の痕跡が報告されている資料はないが、年齢が若齢に偏る理由として、単純にウマの処分サイクルが早かった可能性だけでなく、ウマの損耗が激しかった可能性も考慮に入れる必要があるだろう。

おわりに

中世越中におけるウマの出土事例を概観したところ、廃棄や埋葬と考えられるものが多く、祭祀に伴うと考えられるもの少ないと、大きさによる用途の使い分けはあまりなされていないことが明らかとなった。また、4~6歳前後のものが多く、他地域と比較しても若齢に偏っているといえ、これについては当時の処分サイクルの早さや損耗の激しさなどの可能性を考える必要がある。

今回の分析では諸般の事情により写真からの計測値を用いたものが多く、大まかな傾向を概観するにとどまった。今後既存の報告資料の再調査や未報告資料の資料化を進めることにより精度を高め、更に検討を進める必要がある。また、加賀や越前、越後などについても同様な分析を行い、北陸地域という視点からウマの利用の様相を捉えてゆく必要がある。それとともに、前後の時代の資料の様相との比較を行い、ウマの利用の時期的な変化についても検討を行う必要がある。

謝辞：本稿を成すにあたり、松井広信氏（富山県埋蔵文化財センター）には五社遺跡、石名田木舟遺跡出土資料の調査に際して便宜を図っていただきました。末筆ながらも御礼申し上げます。

参考文献

- 青柳泰介・陳早直人・菊池大樹・中野咲・深澤敦仁・丸山真史 2019『馬の考古学』雄山閣, 331pp.
- 青山裕子 2013『伝田遺跡発掘調査報告-入善黒部バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅰ』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査報告 58, 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, 229pp.
- 池野正男他 2002『石名田木舟遺跡発掘調査報告-能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 3-』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 14, 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 植月学 2018「東国における牛馬の利用」『季刊考古学』144, 雄山閣, pp. 47-50.
- 越前慎子他 2007『岩坪岡田島遺跡・手洗野赤浦遺跡・近世北陸道遺跡発掘調査報告-能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 6-』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 35, 財團法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, 117pp.
- 金子浩昌 1996『骨・貝類同定』『梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告書(遺物編) - 東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ - 第2分冊』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 7, 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, pp. 38-41.
- 鹿島昌也他 2007『富山市小出城跡発掘調査報告書-一般県道下砂子坂池田町線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』富山市埋蔵文化財調査報告 14, 富山市教育委員会, 70pp.
- 鹿島昌也他 2020『富山市黒崎種田遺跡発掘調査報告書-富山県医師会館建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-』富山市埋蔵文化財調査報告 101, 富山市教育委員会, 98pp.
- 黒沢一男 2007『岩坪岡田島遺跡出土動物遺存体について』『岩坪岡田島遺跡・手洗野赤浦遺跡・近世北陸道遺跡発掘調査報告-能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 6-』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 35, 財團法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, pp. 58-59.
- 小林高範他 2007『富山市金屋南遺跡発掘調査報告書IV-金屋企業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4)-』富山市埋蔵文化財調査報告 17, 富山市教育委員会埋蔵文化財センター, 167pp.
- 島田美佐子他 2010『悲領浦之前遺跡・悲領野際遺跡発掘調査報告-能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財

- 調査報告 9- 第二分冊』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 45, 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, 238pp.
- 積山洋 2019 「日本列島に馬が渡來したのはいつか」『馬の考古学』雄山閣, pp. 96-93.
- 長塚孝 2020 「日本中世の馬関係文献目録」『馬の博物館研究紀要』22, 馬事文化財団, pp. 1-12.
- 納屋内高史 2020 「SK201 出土のウマについて」『富山市黒崎種田遺跡発掘調査報告書-富山県医師会館建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-』富山市埋蔵文化財調査報告 101, 富山市教育委員会, pp. 85-87.
- 西本豊弘 1999 「鎌倉市由比ヶ浜南遺跡の出土馬について」『馬の博物館研究紀要』12, 馬事文化財団, pp. 21-25.
- 西中川駿・堀沢祐一 2007 「富山市金屋南遺跡出土の馬齒」『富山市金屋南遺跡発掘調査報告書IV-金屋企業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4)-』富山市埋蔵文化財調査報告 17, 富山市教育委員会埋蔵文化財センター, pp. 154-156.
- 西中川駿・幸村真由美・吉野文彦・塗木千穂子・松元光春 2015 「ウマの臼歯の計測値から体高および年齢の推定法」『動物考古学』32, 日本動物考古学会, pp. 1-10.
- 西中川駿・立松弘・塗木千穂子・真木康之・廣田桂一・松元光春 2020 「ウマの骨計測値から骨長の推定法-一体高推定への応用-」『動物考古学』37, 日本動物考古学会, pp. 21-30.
- 林田重幸・山内忠平 1957 「馬における骨長より体高の推定法」『鹿児島大学農学部学術報告』6, pp. 146-156.
- 林田重幸 1957 「中世日本の馬について」『日本畜産学会報』28-5, 日本畜産学会, pp. 301-306.
- パリノ・サーヴェイ 1998 「五社遺跡出土の動物遺体」『五社遺跡発掘調査報告-能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 I- 第2分冊』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 9, 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, pp. 13-14.
- パリノ・サーヴェイ 2002 「骨・貝同定」『石名木舟遺跡発掘調査報告-能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 3- 第3分冊』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 14, 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, 163-168pp.
- パリノ・サーヴェイ 2010 「木製品の樹種同定、土壤分析、骨同定」『懇領浦之前遺跡・懇領野際遺跡発掘調査報告-能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告 9- 第二分冊』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 45, 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, pp. 158-168.
- 堀内大介他 2014 「富山市新庄城跡発掘調査概報」『富山市埋蔵文化財調査報告 67, 富山市教育委員会, 52pp.
- 松井章 1987 「養老瓶牧令の考古学的考察-斃れ牛馬の処理をめぐって-」『信濃』39-4, pp. 231-256.
- 山崎健編 2016 『藤原京出土馬の研究』奈良文化財研究所研究報告 17, 奈良文化財研究所, 87pp.
- 山本正敏他 1996 『梅原加賀坊遺跡・久戸遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡発掘調査報告-東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告III- 第1分冊』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 8, 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, 300pp.
- 山本正敏他 1998 『五社遺跡発掘調査報告-能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 I- 第1分冊』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 9, 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, 407pp.
- 吉川敏子 1991 「古代国家における馬の利用と牧の変遷」『史林』74-4, pp. 24-61.
- 吉田生物研究所・奈良文化財研究所 2007 「動物遺存体について(平成 15・16 年度調査)」『富山市小出城跡発掘調査報告書-一般県道下砂子坂池田町線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』富山市埋蔵文化財調査報告書 14, 富山市教育委員会, 52p.

研究報告③ 中世・越中国の木製祭祀遺物について

堀沢 栄一
埋蔵文化センター所長

はじめに

筆者は、これまで越中国を中心として奈良・平安時代の人面墨書土器(以下、人面土器)や人形などの木製祭祀遺物について研究してきた^①。

まじないの道具として、人面土器は8世紀前半から9世紀まで使用され、その後は使われなくなる。その一方で、木製祭祀遺物(以下、木製遺物)は、人面土器とほぼ同時期からみられ、10世紀初頭まで存続しており、人面土器とは違い、古代以降も遺跡から出土する。

今回は、中世越中国における木製遺物の様相や特徴について、人形などの木製形態を中心として、古代の木製遺物と比較しながら考察してみたい。

1 木製祭祀遺物出土遺跡の様相

現在のところ、中世の木製形態などが出土する遺跡は13遺跡(図1・表1)である。新川郡が3遺跡、婦負郡が3遺跡、射水郡が1遺跡、砺波郡は6遺跡となる。まずは、各遺跡の様相を述べる。

遺跡名	所在地	説明	中世集落遺跡の範囲	年代(推定)・遺跡	性質	表面	人形	鳥居	馬糞	刀劍	鏡物類	その他	現状	出土遺物	備考
1.1 反木舟	反木舟町	新川郡	13C~14Cの溝	13C後半	集落	△	○	○	○	○	○	○	現存	木製品(1件)(10点)	木製品(1件)(10点)
2.1 上北	上北町	新川郡	13C~15C	13C後半~14C	集落	△	△						現存	遺跡内	木製品(1件)(50点) 木製品(1件)(50点)
3.1 鹿野	鹿野町	新川郡	13C~14C	13C後半~13C前半	集落	△							現存		木製品(5点)
4.1 刈谷	刈谷市	礎石	13C~14C・15C~	13C後半~13C前半	集落	△		△					現存	井戸・柱	木製品(1件)
5.1 道場	道場(市立道場町)	礎石	13C~15C	13C後半~13C前半	集落	△							現存	井戸・河岸	木製品(6点)
6.1 新光	新光(市立新光町)	礎石	13C~15C	13C後半~13C前半	集落	△							現存	井戸	木製品(15点)
7.1 小原	小原(市立小原町)	礎石	13C~14C	13C後半~17C	集落	△							現存	井戸	木製品(1件)
8.1 木名木舟	木名木舟(市立木舟町)	礎石	13C~14C	13C後半~14C後半	集落	△	○	○	○				現存	井戸・柱	木製品(1件)
9.1 五社	少美郡	新川郡	12C後半~14C	12C後半~14C前半	集落	△	○			鏡	○		現存	井戸・谷筋	木製品(30点)
10.1 鶴見	鶴見町	新川郡	13C~14C	13C半	集落	○							現存		
11.1 沼原瀬屋室	沼原瀬屋室(日置光村)	新川郡	12C半~14C	13C・15C後半・16C	集落	△	○	○					現存	井戸・土坑	木製品
12.1 戸ノ口	戸ノ口(日置光村)	新川郡	13C~14C	13C後半~14C	集落	△							現存		
13.1 戸ノ口跡	戸ノ口(日置光村)	新川郡	13C~14C	13C後半~14C	集落	△							現存	井戸・土坑	木製品(59点)

表1 木製祭祀遺物出土遺跡一覧表(No.は図1と対応する)△は現存、○は現存せず、■は削除、□は現存せず削除

(1) 富山県立山町辻遺跡(新川郡)

立山町辻に所在し、標高は21~24mである。弥生、古代、中世の集落遺跡で、中世では溝2条と穴が検出されている。木製遺物は13世紀前半の溝(溝-01)から、大量の木製品とともに出土し、161点が報告されている。溝-01は、幅約2.2~3.2mで、全長約42m分を確認しており、東西方向に走り、途中から北方向に折れる区画溝である(図2)。木製品は、ほぼ溝全域にわたって出土しており、特にB区とC区に集中し、これら両区にD区を加えた区域から「祭祀的色彩の濃い遺物が多い」と指摘されている。

木製遺物は、人形(図2の16)、刀形(図2の33)、陽物形(図2の28)が各1点ある。人形は幅3.3cm、厚さ0.3cmの板材を使用し、両端から焼いて切れ込みを入れ、顔を作り出している。残存長で27.7cmである。刀形は長さ約33cm、鍔を有する鍛造りの刀を模しており、非常に丁寧に作られている。柄頭の片面には「ひ」の字状の文様が掘り込まれている。また、「ひ」の字の中央には直径約2mmの穴があり、何かに打ち付けたか、紐を通して吊り下げて使用した可能性がある。陽物形は、浅い抉りを巡らせて、亀頭部を作り出している。残存長は6.3cmである。図2の48は、下端を逆Vの字状にカットし、足を表現しているとすれば、人形の可能性もある。

斎弔と考えられる木製品もある。箸(図2の10・23・24・51・52・58・59)は、約40点が出土しており、その約7割がBとC区に集中している。この遺物について、四柳嘉章氏^②は、「ハシ状木製品」というのは、全長18~25cm、厚さ0.5~1.0cm前後で両端が尖ったものが多い。(中略)多量(数千本)のものが、祭具を

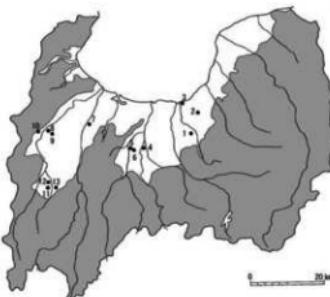


図1 木製祭祀遺物出土遺跡位置図

(No.は表1と対応する)

包含していた状況を重視したい。つまり古代の斎串のように、そこが聖なる空間であることを示す祭具であった可能性が強い」と指摘している。本遺跡の場合も同様の性格を持つと考えられる。また、図2の11・12・22・30・36・37のように直径が1cm程度、長さ20~27cmで、側面を削って円柱状に加工した木製品(報告書には17点が掲載)は「箸状品と同様の意味を持つ木串の可能性がある」と指摘され、出土地区はB~D区で約8割を占める。ちなみに、図2の2と15は、長さ約20cm、幅1~1.6cmで、下端が斜めにカットされており、これも斎串と考えている。AとB区からの出土である。

これらの他に、板碑状木製品(図2の17~20・41~44)が8点あり、うち6点には「大般若経」「大般若心経」と墨書きされる。さらに、漆器、折敷、曲物、竹製容器、栓状木製品、物指状木製品、駒形、独楽未成品?、木針状木製品、糸巻き、柄、杭などが出土している。図2の27は、底部を穿孔した漆器である。

祭祀の内容について「大般若経の奉読を行い、除災招福等を祈願したことは間違いないであろう。その儀式は、律令的祭祀の既存である人形、刀形、陽物等に加えて、頭部を板碑状にし、下端を尖らせた道教思想の影響が窺える形態の木製品を使用し、「大般若経」という仏教的要素を加えた過渡的形態であった」と報告されている。

また、本遺跡では8世紀前半を主体とした自然流路から斎串が2点あり、古代から木製遺物の出土が確認できる。古代新川郡の「川枯郷」に比定する見解もある¹⁰⁾。

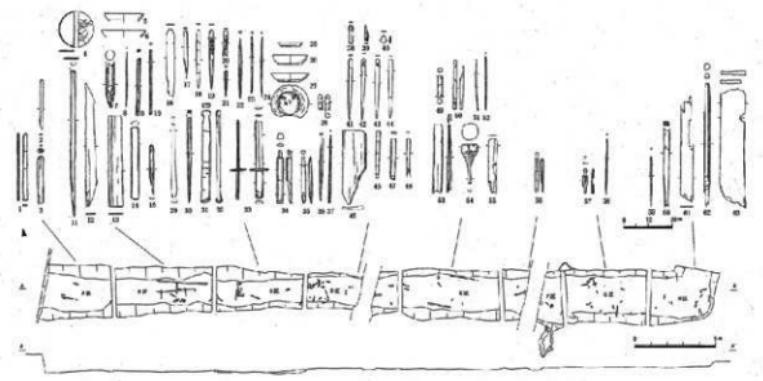


図2 辻遺跡溝-01木製品出土位置図(1:3000)及び出土木製品(1:20)

(2) 富山県上市町江上B遺跡(新川郡)

上市町江上に所在し、辻遺跡の北東方向約3kmに位置する。標高約16mである。弥生、中世の集落遺跡で、中世では13世紀後半~14世紀が中心で、掘立柱建物13棟、柵5条、穴12基、溝15条、木枠施設が検出されている。出土品のうち木製品は破片も含めて、総数17,335点出土しており、大部分は中世に属する。そのうち箸は9,113点で、ほぼ半数を占める。

木製遺物は、遺構外であるが、斎串状木製品(図3の3)と木偶状木製品(図3の4)が各1点報告されている。また、図3の2は、幅約2.2cm、厚さ約2mm、残存長約12.6cmで、下端が尖っており、斎串状木製品の一部と考えており、溝(SD070)からの出土である。SD070からは、塔婆状木製品(図3の1)が1点ある。同様の木製品は、SD040からも出土している(図3の5)。ともに墨痕はない。

SD070は、幅約1m、長さ約29m分を確認している。この溝内には木枠施設が設置され、掘立柱建物(SB121・建物面積約74m²)に伴うとされる。この木枠施設周辺から大量の木製品が出土しており、木製遺物以外に、漆器、折敷、曲物、ミニチュアの櫛、下駄、小刀の柄、有孔円板などがあり、約6,800点に及ぶ箸が出土している。箸の長さは16.6~27.9cmで、平均19.3cm、幅は平均6mmである。

図3の3は、遺構外であるが、SD070の北側、SB121の西側から出土しており、SD070との関わりが考えられる。長さ17.1cm、幅1.6cmで、上端を平坦にし、下端が尖る。両側には切り掛けはない。

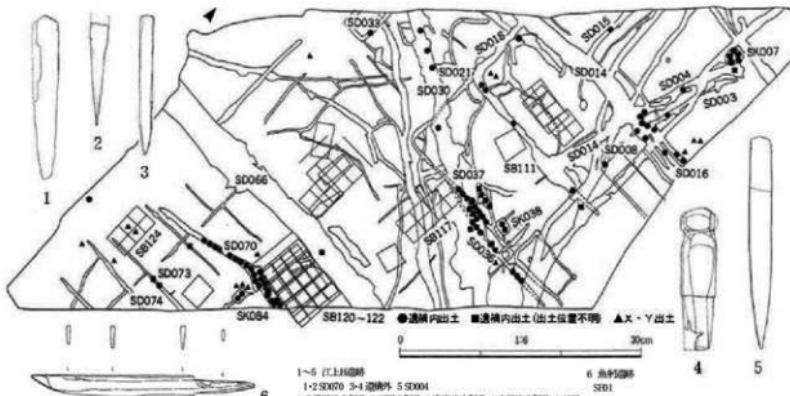


図3 江上B遺跡木製品出土位置図及び江上B遺跡、魚飼遺跡木製祭器遺物(1:6)

このように、SD070から塔婆状木製品や斎串状木製品がみられ、大量に出土している箸を斎串と想定すると、かなり大掛かりな祭祀が行われた可能性が高い。塔婆状木製品と木製造物のセットについて、辻遺跡と同様の祭祀が行われた可能性が指摘されている。

本遺跡は、「公的な性格をもつもの」ではなく「一般集落」、建物は「名主、小百姓の住居」と想定されている。

(3) 富山県滑川市魚飼遺跡(新川郡)

滑川市魚飼に所在し、標高は約2mである。弥生～古墳、中世の集落遺跡で、中世では、12世紀中頃～13世紀初頭が主体で、掘立柱建物2棟、井戸1基、溝が検出されている。

井戸(SE01)から完形品の刀形(図3の6)が出土しており、長さ28cm、幅3cmである。その他に、大量の炭化物とともに漆器、櫛、箸(完形品55本)が出土している。「新保御厨」に関連する遺跡と推定されている。

(4) 富山県富山市友杉遺跡(婦負郡)

富山市友杉に所在し、標高は25～28mである。弥生、古墳、古代、中世、近世の集落遺跡である。

中世では、12～14世紀の中世前半期を中心には、掘立柱建物112棟、井戸91基、土坑151基、木棺墓3基、道、溝113条、谷が検出されている。

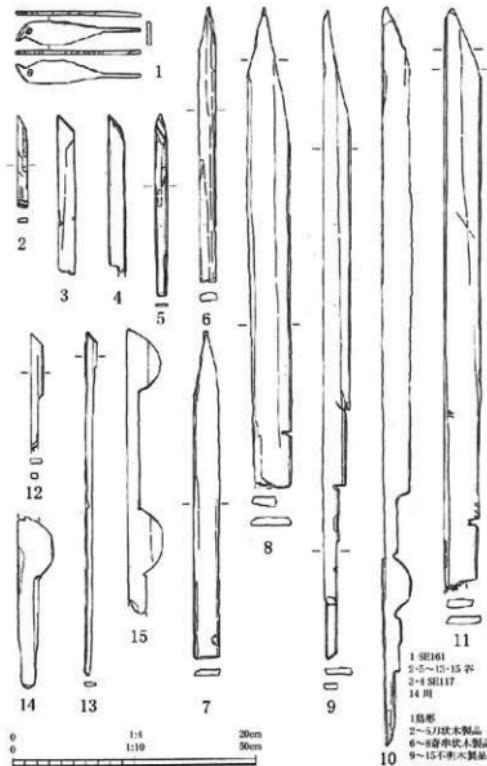


図4 友杉遺跡木製祭器遺物(1は1:4、2～11は1:10)

本遺跡では、8世紀後半から10世紀初頭まで古代集落が継続的に形成され、その後衰退し、12世紀に入り、再び集落がつくられる。中世の初期段階の集落が形成される地区から木製遺物が出土している。

その内容は、井戸(SE161C3)から鳥形(図4の1)が1点、井戸(SE11706)から刀状木製品(図4の3・4)が2点ある。鳥形は完形品で、長さ10.2cm、幅1.9cm、厚さ3mm、嘴、目、尾など丁寧に加工されている。板組の井戸で底から箸とともに出土している。井戸側が修復されており、木製遺物との関係が気にかかる。時期は12世紀中頃～13世紀と考えられる。また、谷C6から、先端を尖らせた斎串状木製品(図4の6～8)が3点、刀状木製品(図4の2・5)が2点出土しており、時期は12世紀末～13世紀初頭に該当する。

谷C6は、北から南方向に落ち込み、北肩を約50m検出している。井戸側や木棺墓に使用された木製品を除いて報告されている木製品は139点あり、そのうち谷C6からの出土点数は95点である。

斎串状の木製品は、幅3.5cm、5.2cm、8.3cmで、長さが55.9～97.6cmになる大型品である。刀状も2点ある。また、形代とした場合、何を模したか明らかではないが(刀や剣の可能性がある)、セット関係になる木製品(図4の9～13・15)があり、何らかの祭祀行為に使用した可能性がある。

また、この谷C6からは漆器、折敷、箸、杓子、下駄、扇なども出土している。併せて、懸仏の鋳型片もあり、「民衆の信仰形態をうかがう一例」とされる。本遺跡周辺は徳大寺領宮河荘と推定されている。

(5) 富山県富山市(旧婦中町)道場I遺跡(婦負郡)

富山市婦中町道場に所在する。神通川を挟んで、友杉遺跡の西方約3.6kmに位置し、標高約20mである。

古代、中世、近世の集落遺跡で、中世が主体となる。13～15世紀の掘立柱建物102棟、土台建物3棟、柵列、井戸91基、土坑約700基、溝299条などが検出されている。集落変遷は5時期が示され、木製遺物が出土している井戸はII期(13世紀末～14世紀前半)に比定されている。本遺跡で本格的に建物群が展開し始める時期である。

木製遺物は、SE043からは斎串状木製品(図5の2)が、SE044からは呪符木箇(図5の1)が出土し、両井戸はともに板組井戸で、並んで検出されている。この井戸に伴う建物は、比較的規模の大きい「中世集落の盟主の建物」とされている。斎串状木製品は長さ52cmと大型で、幅も5.3cmある。呪符には、「南無大日如來」と墨書きされる。

また、集落の東端に位置する旧河道(SR01)から、刀形(図5の3)と剣形(図5の4)がある。SR01は、幅10.5～10.8m、深さ約1mの規模で、約135m分が確認されている。SR01出土の木製品は約180点報告されており、井戸側や水溜を除いた木製品の約66%を占める。この中には斎串同様とする箸が76点含まれており、図5の5や7も斎串の可能性を推定している。図5の6に似た木製品は友杉遺跡にみられる(図4の12・13)。この他に、漆器、曲物の底板、下駄などがある。時期は14世紀中頃～15世紀前半と考えられる。

本遺跡周辺は友杉遺跡同様に徳大寺領宮河荘と推定されており、「莊官クラスの人物との関わり」や「莊園経営に関わりの深い物流拠点としての性格」が指摘されている。

(6) 富山県富山市(旧婦中町)中名II遺跡(婦負郡)

富山市婦中町中名に所在し、道場I遺跡の南西約700mに位置し、標高は23mである。古代、中世、近世の集落遺跡である。中世では12世紀～16世紀の掘立柱建物65棟、柵1条、井戸18基、土坑、溝、鍛冶関連構造、石列が確認されている。木製遺物は、幅約10m、深さ約1mの溝(SD2251)から舟形(図6の1・2)が2点、斎串状木製品(図6の3)が1点報告されている。図6の2は、残存長で25.6cm、幅3.6cmである。船首と船尾近くに横線があり、掘り込む前の目安の線とされている。未完成である。図6の3は、長さ19.4cm、幅2.0cm、厚さ6mmで、下端が尖り、側面に切り掛けはない。

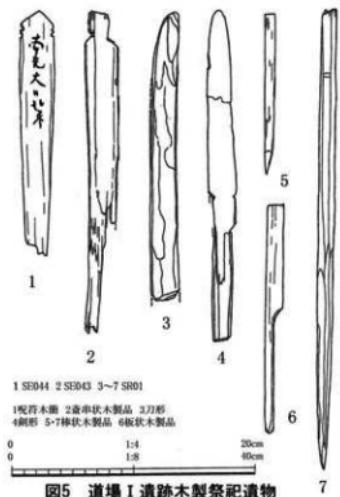


図5 道場I遺跡木製祭祀遺物
(1・3～7は1:4, 2は1:8)

また、SD2251 の報告されている木製品は82点に及ぶ。箸は26本あり、約3割を占め、斎串の可能性が指摘されている。また、図6の4~8のような、棒状の木製品も斎串の可能性が考えられる。その他には、漆器、折敷、曲物の底板、櫛等が出土している。祭祀の時期は、12世紀末~13世紀前半と考えられる。

SD2251 の西方向には、本溝と直交して溝があり、一部途切れていることから、その部分が集落の出入口と考えられており、SD2251 に近接する。本遺跡周辺は、古墳遺跡や道場I遺跡同様に徳大寺領宮河莊に推定されている。

(7) 富山県射水市(旧大門町) 小泉遺跡(射水郡)

本遺跡は、射水市小泉に所在し、標高は11~12mである。中世、近世の集落遺跡で、15世紀中葉~17世紀頃の井戸が3基検出されている。また、縄文時代前期中葉~中期前葉の遺物が出土している。

木製遺物は、井戸(SE3)から陽物形(図7)が出土しており、長さ16.8cm、直径3cmである。また、漆器、折敷、曲物の底板、柄杓等が伴う。本遺跡周辺には、小泉城跡(16世紀末~17世紀)が推定されている。

(8) 富山県小矢部市・高岡市(旧福岡町) 石名田木舟遺跡

(砺波郡)

小矢部市石名田、高岡市木舟に所在し、標高22~25mである。古墳、古代、中世、近世の集落遺跡である。中世の掘立柱建物83棟、礎石建物4棟、土台建物10棟、柵5条、井戸120基、土坑450基、道路3条、溝150条などが検出され、ほぼ15世紀末から16世紀に属する。

木製遺物は、溝(SD1959)から人形(図8の1)が、16世紀前半の溝(SD7003)から舟形が、各1点ずつ出土しており、また包含層から鳥形(図8の3)がある。

人形は、直径1cmの棒状の材を利用しておらず、抉りによって、目や口を作り出し、顔を表現している。長さは10.7cm以上である。16世紀前半~中頃と考えられる。

鳥形は、長さ8.5cm、幅2.7cmである。抉りによって頭部をつくり出している。

舟形が出土したSD7003からは、漆器や斎串と考えられる箸(図8の4)、両面を八分し数字や文字、記号を墨書きした土器(図8の5)がある。地鎮目的とされる。

また、溝から呪符木簡が出土している。図8の7はSD7180(15世紀後半)から、図8の6はSD7002(16世紀前半~中頃)から出土し、梵字や「急々如律令」等の墨書きがあり、魔除けや調伏、悪霊や怨霊を祓うために使用したと推定されている。

舟形や呪符木簡が出土している溝は、15世紀後半から16世紀中頃にかけての区画溝と考えられている。SD7180(幅4.25m)は南北約60m、SD7002(幅7.2m)は東西80m、南北70mの方形の大区画を形成する溝、堀であり、SD7003(幅5.2m)は、大区画内をさらに区切る溝にあたる。本遺跡の付近には木舟城があり、その城に開わる方形区画溝(堀)に閉まれた屋敷地や城下町の町割が確認されている。

古代では、9世紀中葉前後の掘立柱建物の柱穴から斎串が出土している。また、「郡家」に直接関連する建物群が存在している可能性が高いと指摘されている¹⁰⁾。

(9) 富山県小矢部市五社遺跡(砺波郡)

小矢部市五社に所在する。石名田木舟遺跡の南東約1kmに位置し、標高は22~25mである。古墳、古代、

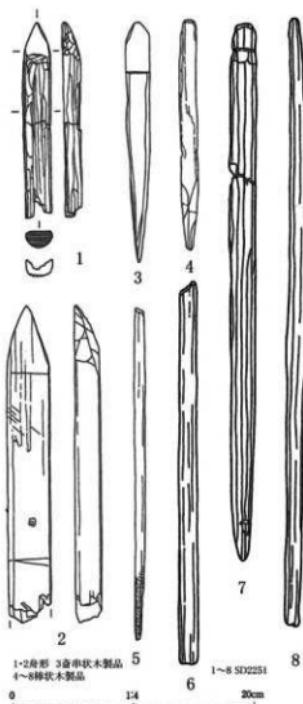


図6 中名II遺跡木製祭祀遺物(1:4)

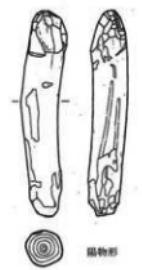


図7 小泉遺跡
木製祭祀遺物
(1:4)

中世、近世以降の集落遺跡である。中世では、12世紀後半～14世紀の掘立柱建物48棟、井戸5基、土坑209基、溝113条が検出されている。

木製遺物は、谷部から舟形2点(図8の10・11)、鏡状木製品1点(図8の9)が出土している。

また、14世紀の掘立柱建物(SB59)の母屋内の柱穴SP5007から呪符木簡が確認されている。

舟形などが出土している谷部は、幅18～22mあり、全長で110mを検出している。図8の10は長さ28.5cmで、全面に漆の痕跡がある。本遺跡で報告されている木製品202点の内、

89点は谷部からの出土である。図8の8や12～18は斎車の可能性が考えられる。その他には、漆器、折敷、曲物、箸、杓子形木器、下駄、糸巻、柄などがある。祭祀の時期は、12世紀後半～14世紀前半と考えられる。本遺跡は、「糸岡荘の莊域内に展開した集落の一端をなすもの」と評価されている。

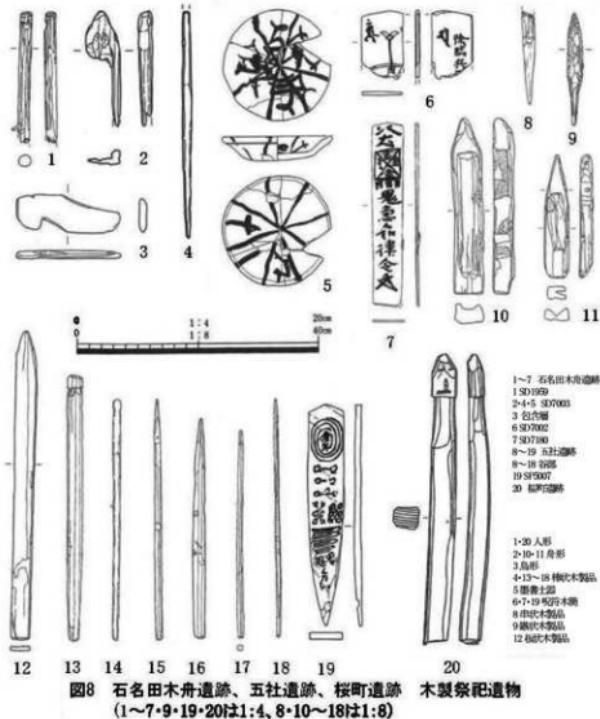
(10) 富山県小矢部市桜町遺跡(砺波郡)

小矢部市桜町に所在し、標高は23～30mで、繩文、弥生、古墳、飛鳥、奈良、平安、中世の集落遺跡である。中世の掘立柱建物、井戸、土坑、溝などが検出されており、木製遺物は13世紀前半の井戸から立体的な人形(図8の20)が出土している。長さ約23cm、幅約2cmの四角柱から作られている。上端から約7.5cmの部分から縦方向に削り出して顔部分を作り上げる。顔部分の長さは約3.5cmである。頭部は斜めに削り落としている。目、鼻、口は直線状に彫り込む。他の木製品は、漆器、折敷、曲物、箸、杓子、下駄、櫛、糸巻などがある。本遺跡周辺は、東福寺領「宮島保」が比定されている。古代では、9世紀前半の溝から斎車が出土しており、古代砺波郡の「長岡郷」を構成していた遺跡と考えられている。

(11) 富山県南砺市(旧福光町)梅原護摩堂遺跡(砺波郡)

南砺市梅原・宗守に所在し、標高は67～70mである。繩文、古代、中世、近世の集落遺跡である。中世では、調査区の北側で12世紀中頃から14世紀(一部、15世紀含む)の掘立柱建物125棟、溝51条、井戸31基、土坑約233基、土塙墓1基、供養闇廻遺構1基、畝状遺構などが検出されおり、掘立柱建物は自然河川や溝で区画された中に配置される。この時期の集落の南外周部に供養闇廻遺構(SK4483)があり、卒塔婆(図9の3)が出土している。大量の中世土師器と木製品は箸などが伴う。

15～16世紀になると集落は、南側に移動する。掘立柱建物56棟、溝101条、井戸240基、土坑230基、道路状遺構などが検出されおり、道や溝により屋敷地が区画される。



この時期に木製遺物が井戸から確認されており、SE4327(15世紀後半)から舟形(図9の1)、SE9751(16世紀)から刀子形(図9の2)がある。舟形は長さ15.1cmで、削り抜かれた部分は焼けたためか黒くなっている。刀子形は刀身と柄の間に段を付けている。両者から底板、後者から漆器、茶筅が出土している。

本遺跡周辺を石黒三莊の一つを構成していた山田郷の範囲に相当する可能性が高いとの指摘がある¹⁰⁾。

(12) 富山県南砺市(旧福光町)久戸Ⅱ遺跡(砺波郡)

南砺市久戸に所在する。南西方向に位置する梅原護摩堂遺跡と隣接し、山田郷に関連する遺跡と考えられる。標高は70m前後で、弥生、古代、中世、近世の集落遺跡である。中世では掘立柱建物、井戸、土坑などが検出され、河道から立体的人形(図9の4・15世紀頃)が出土しており、高さ9.5cm、幅3.4cm、奥行3cmである。約3cm四方、高さ10cm程度の直方体の木材を削り、顔部分や手を作り出している。顔部分の目、口は削り込んで、鼻は削り出しで表現している。下部には、脚なのか、台のようなものがある。

(13) 富山県南砺市(旧井口村)井口城跡(砺波郡)

南砺市池尻・久保に所在し、標高は108~110mである。井口城は、元弘年間(1331~1334)には井口藏人が城主とされ、南北朝期には桃井直常につながった井口氏の拠点であった。応安2(1369)年に能登の吉見氏の軍勢に攻められ落城し、その後、文明年間(1469~87)には今村氏が居城とされる。

調査により、15世紀後半の方形の主曲輪(約90m四方)と馬出状の小郭が確認された。木製遺物はこの時期にあたる土坑(SK25)から刀形1点(図9の5)、刀子形2点(図9の6・7)が出土している。図9の7には先端部の両面に黒漆が付着している。長さ20~25cmで、幅6mmの箸状木製品が24点報告されており、斎串と同等品と考えられる。図9の8も斎串と想定したい。この他に、漆器、櫛、折敷などがある。

また、13世紀後半頃と考えられる土坑(SK21)から陽物形(図9の12)が出土している。長さ17.6cm、幅2.8cmで、一部樹皮が残る。また、笊が底面から出土している。

呪符木筒もあり、井戸(SE01)から2点(図9の9・10)、溝(SD05)から1点(図9の11)出土しており、時期は、SD05が14~15世紀、SE01はSD05より新しく、ともに箸状木製品がある。

城館での祭祀行為
がうかがえる事例である。

2まとめ

まずは、中世の越中国での木製遺物の特徴に触れてみたい。

木製遺物の内容は、斎串、人形、舟形、鳥形、刀形、剣形、鎌形、刀子形、陽物形がある。

古代と比較すると馬形、琴形、琴柱形が欠けるが、ほぼ古代と木製遺物の内容と変わらない。ただ、全体的に出土点数は少なく、各遺跡においても、各形代類は、1、2点程度の出土がほとんどである。

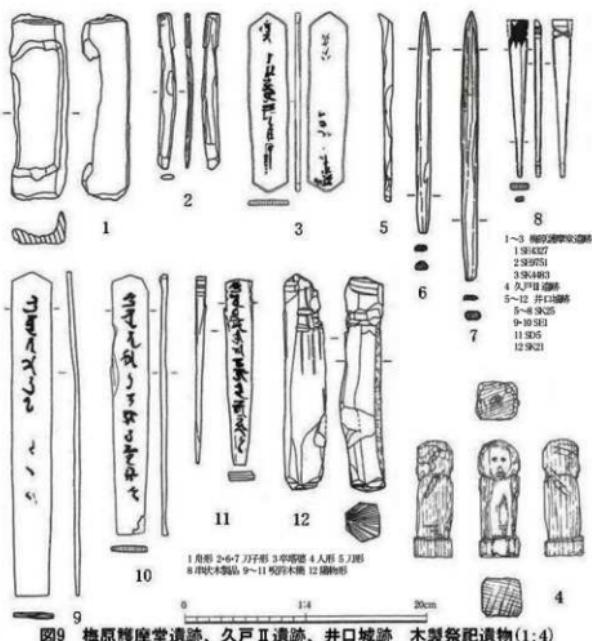


図9 梅原護摩堂遺跡、久戸Ⅱ遺跡、井口城跡 木製祭祀遺物(1:4)

斎串については、古代越中国で最も出土点数が多い、両側面に切り掛けを入れるタイプの斎串は出土していない。ただし、板状で先端が尖り、上部を圭頭状や平にし、切り掛けを入れる前の状態で串状のものがあり斎串と考えたい。また、他の木製遺物に伴う「箸」や「棒状木製品」は、四柳氏が指摘するように、斎串と同等の性格と捉えられる。そのように考えると、総数で約7,100点に及ぶ。斎串単独での出土は道場I遺跡以外事例がなく、人形や舟形、刀形など他の木製遺物又は呪符木簡等とセットで出土する。出土遺構は、溝や谷、河道、井戸になり、数量は他の木製遺物の点数と比較しても、かなり多い。古代と同様の傾向を示している。中世段階でも、祭祀の場面に欠かせない道具なのであろう。

人形は4点が出土している(木偶状木製品を含めると5点)。幅3cm程度の板材に側面から切り欠きを入れて顔部を作り出す、板状の人形もあるが、棒状や角柱状の立体的な人形が多い。溝と井戸から出土している。古代では約60点出土しているのと比較すると、出土点数は圧倒的に少ない。

舟形は6点あり、船首を三角形に作る和舟型が2点、丸木舟型が1点となる。最大の舟形は長さ29cmである。また、図6の2のように、未完成の舟形もある。古代の事例であるが、射水市の北高木遺跡で船尾から削り始め、途中でやめている事例がある。鳥形は2点ある。古代においても、出土点数は3点と少なく、表現も抽象的であるのに対して、図4の1は写実的である。

刀形、剣形、鎌形、刀子形は、あわせて13点出土している。古代同様に刀身部分が出土する事例が多い。図3の6は完形品であり、図2の33はミニチュア品とも言える精巧なつくりである。出土遺構は13点中9点が井戸からである。友杉遺跡や井口城跡では、ひとつの井戸から2~3点が出土するケースもあり、組み合わせによる使用を考えられる。井戸から完形の刀子(鉄製)が検出された事例から、四柳氏は「その殺傷力の強さから転じて、惡靈を退散させる呪具となつた。(中略)井戸の浄化を願って投入したものであろうか」と考察されており^①、このようにみると、刀形等の木製遺物にも同様の効果を狙つたと考えられる。

陽物形は3点。井戸から単独で出土する場合と、溝から斎串、人形、刀形とセットで出土する場合がある。井戸の水が枯渇しないことを祈ったり、祓の場で使用されたと考えられる。古代でも4点と少ない。

木製遺物の年代については、ある程度時期を想定できる遺物を考慮すると、13世紀、15世紀、16世紀にみられ、13世紀前半の出土点数が多い。ただ、出土点数は少ないながらも中世末まで継続して木製遺物として使用しているようである。なお、斎串の出土点数を含めると中世前半の点数が圧倒的に多い。

出土遺構は、溝、谷、河道、井戸といった水に関わる遺構であり、古代と同様である。辻遺跡や石名田木舟遺跡のように屋敷地を区画する構、道場I遺跡や中名II遺跡のように集落の境を示す溝から出土したり、中名II遺跡では集落の出入口付近でもある。このように、屋敷地とその外、集落とその外のように境界を意識した場所から木製遺物が出土する事例もある。

また、このような祭祀行為の背景には、莊園の存在が考えられないだろうか。魚躬遺跡は「新保御厨」、友杉遺跡、道場I遺跡、中名II遺跡では「宮河莊」、五社遺跡では「糸岡莊」、桜町遺跡では「宮島保」、梅原護摩堂遺跡、久戸II遺跡では「石黒莊山田郷」が推定されている。また、城館との関わりも想定できる小泉遺跡では「小泉城」、石名田木舟遺跡では「木舟城」、井口城跡は、城の主郭内で祭祀が考えられる。ただし、莊園にしても、城館にしても、どの程度のクラスの人物が関わっているのかを検証する必要がある。

今回は、越中国の中世遺跡から出土した木製遺物の様相等について検討したが、富山市の金屋南遺跡や黒崎種田遺跡では、漆椀や竹などを使用して、井戸構築時や廃止時の祭祀行為を行っている。これらの中では、木製遺物は使用されていないが、中世のまじないの一端が見えてくる。このようなことも踏まながら、改めて越中国における中世の精神世界について検討したい。

注

- (1) 堀内佑一2008「古代越中国の神祭祭祀について」『富山史第60巻第4号通巻609号』
- (2) 四柳草草1984「能登・中世遺跡における御前・穴木御西川島御廟の調査から」『石川考古学研究会誌第27号』
- (3) 藤田富士夫2001「東大寺御廟・中庭田園『大部庄』の現地検定と若干の考察」『富山史地第135号・136号合併号』
- (4) 森隆1998「越中國の古代祭祀慣習に関する観察」『大垣第19号』
- (5) 金田幹裕2001「古代・中世の村落『ふるさと富山歴史館』
- (6) (2)と同じ

はじめに

令和元年に実施した黒崎種田遺跡の発掘調査で、13~15世紀を主体とする蟻川氏一族またはその家臣の有力武士が居住した屋敷地の遺構を検出した。蟻川氏は越中国新川郡太田保蟻川郷を本拠とした武士である。京都山科を本拠とする宮道氏一族であったが、宮道親直が鎌倉初期に蟻川の地に居を構え、新川・砺波両郡内に所領を有し蟻川姓を名乗り始めたとされる。京都を拠点としていた宮道氏がなぜ、越中の蟻川の地を本拠としたのだろうか。

また、6代鎌川親朝が南北朝動乱期に丹波国(現・京都府南丹市)に移り、室町期には幕府で政所執事の伊勢氏の代官を代々務めるようになる。宮道・鎌川氏ゆかりの地を辿って遺跡の立地から鎌川の地が本拠となった背景を探る。

宮道氏の本拠、京都山科

宮道氏の本拠は山科盆地の南西部、山科川と旧安祥寺川合流地点の北側、栗栖野丘陵周辺に広がる中臣遺跡(旧石器～平安時代の遺跡・弥生後期～飛鳥期の住居群等)や合流地点南西に位置する勧修寺旧境内一帯とされる。中臣遺跡には醍醐天皇の祖母宮道列子の墓と伝わる宮道古墳(直径26m横穴式石室を有する6世紀後半の円墳)を含む中臣十三塚と呼ばれる古墳群が築かれる。

勅修寺は平安初期、宇治郡の大領だった宮道
弥益の邸宅跡を醍醐天皇が寺院に改めた。その旧
境内に含まれる宮道神社(868年創祀)には、宮道
弥益・列子・胤子(宇多天皇の妃)・藤原高藤(胤子
の父)等勅修寺ゆかりの人たちが合祀される。

この宮道氏拠点の地から北に約3kmには7世紀後半に八角形墳である天智天皇陵が築かれる。山科川を挟んだ東には、平安前期の女流歌人小野小町ゆかりの随心院や醍醐天皇陵が築かれる。

また、中臣遺跡の北には浄土真宗中興の祖、



図1 京都市山科周辺遺跡分布（文献1に加筆）



図2 勸修寺（宮道弥益旧邸宝跡）



図3 山科川（北から）右岸が中臣遺跡

蓮如により文明10(1478)年から山科本願寺やその寺内町の造営が開始された。ここからは16世紀代の金付き土器が出土している。宮道氏は、地域の主要河川が合流する場所を掌握し、治水技術にも長けていたであろう。東には奈良街道が南北通り、人やモノが集まる河川・陸上交通の要衝でもあった場所で、早くから古墳を築く有力者が集落を営み、陵墓が築かれるなど天皇家ゆかりの地を拠点に活躍した豪族であった。

宮道氏、越中鰐川の地へ

この宮道氏が本拠を移した越中国新川郡鰐川の地における遺跡立地の空間構造を見てみると、京都山科の地と共通する点を見いだすことができる。宮道氏が鰐川氏と改姓して拠点とした新川郡太田保鰐川の周辺には、西に広がる婦負郡宮河荘との間に流れれる熊野川と土川流域に早くから集落が営まれていた。

鰐川館跡の東600mに位置する上野井田遺跡では、弥生終末期の周堤帯を持つ堅穴建物が近年発掘された。南約2.8kmの大沢野台地縁辺部には、古墳後期の横穴式石室を有する八角形墳とされる伊豆宮古墳が築造され、その西約1kmには6世紀中葉の陶質土器が出土したと伝わる福居古墳がある。

古代になると開発が急速に進み、熊野川と土川流域で、大規模な集落が幾つも営まれる。鰐川館跡から熊野川を隔てた西側の扇状地には任海宮田遺跡や友杉遺跡で集落が形成される。270棟に及ぶ建物跡や「塹田」、「城長」など800点以上の墨書き土器などがみつかり、扇状地の開発を目的とした開墾集落とみられている。黒崎種田遺跡では、市内で2例目となる暗文土器が出土し、古代の官衙的な集落の存在が推測される。これらの大規模集落を流域に有する熊野川・土川の合流地点のやや下流左岸には、鶴坂I遺跡があり、平安期の集落跡が発掘されている。その南に隣接して式内社の鶴坂神社が所在する。鶴坂は奈良期に越中国守となった大伴家持が詠んだ万葉集にも登場し、種田地検察の際には立ち寄っていたゆかりの地でもある。家持の歌にみられる「鶴坂川」はこの熊野川と土川が合流して北流する現・神通川とみられる。平安期には伊勢神宮領の莊園、鶴坂御厨が存在していた。



図4 熊野川の右岸に鰐川館跡（南から）

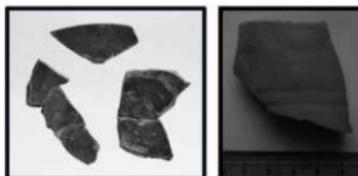


図5 富山市黒崎種田遺跡出土の（左）古代暗文土器、（右）中世青白磁梅瓶片



図6 富山市鰐川周辺遺跡分布（上が南）

平安時代後期に越中國守となつた藤原顯長（勅修寺流）の頃に目代として赴任した宮道氏の一族、七郎親直が鷹川の地に居を構え鷹川を名乗つた。親直晩年の建久7(1196)年には京都の祇園社を黒崎の地に勧請した。

以上のように、宮道氏の拠点であった山科と鷹川氏となつた越中鷹川の地は、①古代以前から地域の有力豪族や天皇家の墳墓が築かれる地を背景に古代以前から大規模な集落が営まれた、②河川や陸上交通の結節点の地であり人やモノ（官物など）の流れを掌握する上で重要な場所であった。

越中鷹川館での動向

鷹川館には鎌倉初期に初代親直が居住し、12代常嗣が戦国期の永禄9(1566)年に神保氏との戦いで敗死するまで拠を構えた。館は南北2つの郭からなり、堀を除く規模は、南北250m、東西110mと県内最大級の中世居館と推測されている（高岡編1998）。鷹川城跡とも呼称される。発掘調査は実施されていないが、高岡徹氏らの遺構測量や採集遺物、石造物調査で、14～16世紀のものと推測された。館跡には現在、曹洞宗最勝寺が所在する。鷹川2代目の親綱を開基とし、当初は臨済宗寺院として建久8(1197)年に黒崎の地に建立したとされる。鷹川館の鬼門となる北東には山城国山科の山科神社を勧請した諏訪神社が鎮座し、宮道弥益が祭神として祀られている。

鷹川氏は国衙領新川郡太田保内の開発領主として代々鷹川の地を本貫地とした。『祇園社記』康治元(1142)年の記述などから、新川郡堀江荘の下司職（荘官）を母胎として、新川郡から婦負郡などにも及んでいたとみられる（坂井1963）。鷹川館は、新川郡の西端に配置され、鷹川氏は熊野川を越えた婦負郡内にも領地をもち勢力を広げていたことが推測される。

新潟県魚沼神社所蔵の嘉慶2(1338)年の文書に「婦負郡宮河莊鷹坂社」とあり、文和3(1354)年の足利義詮御判御教書案（徳大寺文書）にみえる徳大寺家領莊園の宮河莊が所在していた。この宮河莊は熊野川の左岸～井田川付近の婦負郡の平野部一帯に広がっていたとみられる。徳大寺氏は、院政期に藤原北家高藤流の公家の一流で勅修寺流との姻戚関係をテコに越中に所領を獲得して発展したとされる（久保1983）。時代は遡るが、任海宮田遺跡からは、「北家」の墨書きを施した9世紀の土師器碗が出土している。藤原北家との関連を窺わせ興味深い（同遺跡では「西家」墨書き土器も出土し、「北家」の意については要検証）。この徳大寺家領莊園も、鷹川氏が開発領主として広げた領地を基盤としていたのではないだろうか。

鷹川館跡に隣接する黒崎種田遺跡では、13～15世紀の鷹川氏が活躍した時期の方形区画の屋敷地跡や青磁等の輸入陶磁器、県内初となる金付き土師器片が出土し、鷹川氏一族または家臣の有力武士が居住した屋敷跡とみられる。同遺跡北寄りの地区で、12世紀後半～13世紀の遺構や高級中国磁器である青白磁の梅瓶片が出土している。鷹川氏の本拠となる鷹川館の北側の黒崎種田遺跡一帯には、ゆかりの寺社が創建・勧請され、莊園開発や経営に関わる鷹川氏一族や有力な家臣などが暮らす町（城下町）のような空間が広がっていたことも推測される。



図7 富山市任海宮田遺跡
出土墨書き土器（文献2）



図8 越中鷹川館跡（南郭・現最勝寺）
(文献3に加筆)

蜷川氏の一派、丹波の地へ

南北朝期には、6代蜷川親朝が丹波国船井郡(現・京都府南丹市園部町)の蟠根寺城(蟠川城)^{はんねんじじょう}に拠った。大堰川(桂川)と園部川支流陣田川の間にそびえる標高320mの丘陵頂部に位置し、城域は南北約240m・東西115mと越中蟻川の拠点であった蟻川館に匹敵する規模である。城跡周辺は室町幕府の御料所である桐野河内郷に所在し、所領内から集めた官物(年貢)など桂川を経由して都へ運ぶための要衝の地であった。現在でも山陰本線や京都縦貫道が通る山陰地方と京都を結ぶ交通の要衝である。

ここを拠点に蟻川親朝は足利尊氏に仕え、室町幕府の政所執事であった伊勢氏との縁をきっかけに孫の蟻川親当が伊勢氏の代官(政所代・幕府の財政機関)の要職に就き、代々世襲(「新右衛門」を名乗り、アニメ「一休さん」にも登場)することになる。曹洞宗蟠根寺は、京都東福寺の墨翁源仙を開山として建立された。応安6(1373)年親当の招請と伝わり、丹波蟻川氏の菩提寺となる。中世は現在地の北側の谷一帯にあった。戦国期には蟻川氏が明智光秀に従い天王山(1583年山崎の合戦)で敗れこの地に逃れたこともある。

おわりに

このように、官道氏から蟻川氏へ、さらに幕府の要職へと登り詰めた一族が拠点とした3地区を比較すると、いずれも河川の結節点周辺に居館や城を配置し、治水技術や人・モノの行き来を掌握できる交通の要衝に位置して



図9 大堰川(桂川)左岸から蟠根寺城跡(蟻川城・中央山頂付近)を望む



図10 蟒根寺城跡(蟻川城跡)山頂付近の郭



図12 京都府南丹市蟠根寺城跡(蟻川城跡)周辺遺跡分布(文献4に加筆) 上が北



図11 蟒根寺の中世石造物(2020年2月撮影)

いることが分かる。山科や龜川の地は、古代以前から古墳や集落が立地し、中世以降は荘園経営などを背景に活発な経済活動を行う上で豪族や武士が拠点としていた。

中世期において同様の空間構造を示す場所が、中国地方の守護大名内氏の城下町として発展した山口が挙げられる。時期は少しづつ異なるが、富山黒崎種田遺跡、山口大内氏館跡、京都山科本願寺跡からは、いずれも金付き土器師皿が出土し、それを入手できるだけの経済力のある有力者が居を構えていたことを物語る。このような立地空間が富山県内最大級の中世居館を越川の地に成立された要因の一つと考えられる。室町後期以降は、河川・陸上交通のみならず、潟湖や港など海上交通を利用した経済活動が活発となり、内陸にある越川の地から10代将軍足利義材が拠った放生津や北陸街道に沿った富山・柳町の

現在、蛭川の地は、東西を横切る北陸自動車道と南北の飛驒街道（国道41号）が交わり、物流に関わる企業などが多く立地し、中世期の発展の様相を今に再現しているように思える。

最後に本稿を作成するにあたり、井尻智道・金山真樹・新田和央・高橋潔・萩原大輔・山本雅和の各氏から資料や情報の提供をいただいた。記して謝意を表します。

《参考·引用文献》

- 文献1 京都市考古資料館・京都府立洛東高等学校他 2013『高校生が歩いて学んだ山科』

文献2 富山市教育委員会 1997『富山市吉倉B遺跡 任海宮田遺跡』

文献3 高岡徹編 1998『越川館跡調査報告』とやま歴史的環境づくり研究会

文献4 京都府教育委員会 2013『京都府中世城館跡調査報告書』第2冊－丹波編－

文献5 山口市教育委員会 2010『大内氏館IV』

文献 久保尚文 1983『莊園史の特色』『越中中世史の研究』桂書房
園部町・園部町教育委員会 2005『図説・園部の歴史』
坂井誠一 1963『遍歴の武家－越川氏の歴史的研究－』吉川弘文館
富山市教育委員会 2020『富山市黒崎種田遺跡発掘調査報告書』
森浩一 2008『山科盆地とその周辺』『京都の歴史を足元から探る』学生社
山村亜希 2006『日本中世都市の空間とその研究視角』『史林』第89卷第1号史学研究会



図 13 山口市大内氏館跡周辺遺跡分布
(文献 5 に加筆)

令和2年度 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 №22

令和3(2021)年3月31日発行

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒939-2798 富山市婦中町速星 754 婦中行政サービスセンター3階
TEL : 076-465-2146 FAX : 076-465-5032
Email : maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印 刷 有限公司ヤツオ印刷